関東学院 中期計画
（2025-2029）

学校法人　関東学院

目　次

中期計画（2025-2029）の策定に向けて ……1

中期計画（2025-2029）の基本理念 ……2

各学校等の中期計画（2025-2029）

関東学院大学 …… 3

関東学院中学校高等学校 …… 13

関東学院六浦中学校・高等学校 …… 17

関東学院小学校 …… 20

関東学院六浦小学校 …… 23

関東学院六浦こども園 …… 26

関東学院のびのびのば園 …… 29

法人 …… 34

第二期中期計画の策定に向けて

理事長　規矩　大義

1884 年に横浜バプテスト神学校からスタートした関東学院は、幾度かの変革期を経て、現在では 11 学部 5 研究科で構成する大学・大学院、二つの中学高等学校、二つの小学校、そして二つの幼保連携認定こども園を擁する総合学園に発展し、昨年 2024 年には創立 140 周年を迎えることができました。

それに遡ること 15 年前、創立 125 周年を記念した 2009 年に、次の四半世紀の目標として、学院創立 150 年に向けた長期の方向性を示すことを宣言し、翌 2010 年から学院グランドデザインを策定しました。

さらに、大学の組織再編が進められた 2014 年には、法人・大学、そして学院各校の 10 年後のあるべき姿、ありたい姿を具体化した関東学院未来ビジョンを策定し、そのマイルストーンとして中期計画が位置づけられ、未来ビジョンの後期と重なる第一期中期計画（2020-2024）に基づく施策、重点事業が実行され、早晩、5 年間の計画期間が終了したところです。

これまでも、計画構想段階からの環境変化を吸収するため、毎年少しずつ見直しを行うローリング形式で計画管理を行ってまいりましたが、それでも学院の置かれた環境、大学・各校を取り巻く環境の変化は激しく、第二期中期計画（2025-2029）では、新しい時代に即した、より具体的な計画の策定とその実行と目標達成が求められています。

第二期中期計画（2025-2029）では、更なる少子化が進む厳しい環境下においても、学院と学院各校が維持継続され、さらに発展していくために、取り組むべき重点課題を設定するとともに、それらに対する具体的な行動計画を立案し、それを確実に実行していくことを表明するため、ここに公表するものです。

この中期計画に基づき、法人ならびに学院各校が、重点事業を含む事業計画、予算編成方針を策定し、それに基づく運営、経営を行うことで、目標に向け着実に歩みを進めてまいります。

中期計画（2025-2029）の基本理念

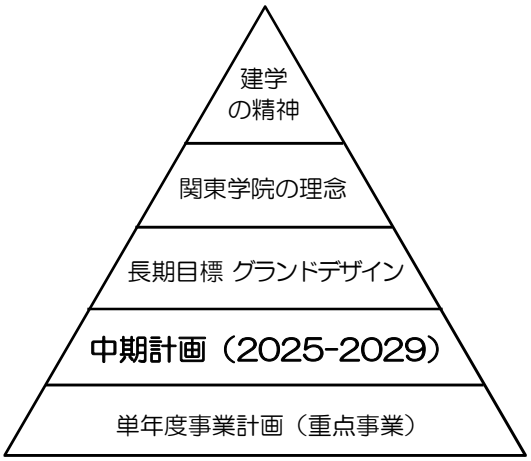
中期計画の基本理念は以下の関東学院の理念に基づいています。

関東学院の建学の精神は、キリスト教の精神にある。他者を理解し共感するための広く深い教養を修得し、他者のために行動できる奉仕の精神を涵養することにある。多様性の中での自己の確立と共生のための教養を礎に、人のため、社会のため、ひいては人類のための思考と行動を通して、次世代の社会を他者と共に創り上げることを目指す。

関東学院は、校訓「人になれ 奉仕せよ」により、キリスト教の精神に基づき、生涯をかけて教養を培う人間形成に努め、人のため、社会のため、人類のために尽くすことを通して己の人格を磨く、という教育方針を継承してきた。

関東学院は、教育研究機関としての真理探究に加え、キリスト教の精神に基づき、社会において主体的に自立して生きるための知識と技術を養い育てることを通じて、社会に貢献しつつ校訓「人になれ 奉仕せよ」を体現することのできる人材を育成する。

中期計画（2025-2029）は、今後5年間のうちに実行すべき重点事項・施策です。
それに基づいて毎年度の予算編成方針と事業計画を策定します。



校訓「人になれ 奉仕せよ」
↓
関東学院の理念
↓
150 周年に向けた姿
↓
ビジョンを具現化する行動計画
↓
中期計画に基づく単年度事業計画

建学の精神・理念・長期目標・中期計画・単年度事業計画（概念図）

関東学院大学　中期計画（2025-2029）

学長 小山 嚴也

学院創立 140 周年を迎え、関東学院大学は「第二期中期計画（2025-2029）」を取りまとめ公表いたします。

第二期中期計画（2025-2029）は、「1. 教育」「2. 研究」「3. 学生支援（学生生活、キャリア・就職）」「4. 入試（募集・広報）」「5. 社会連携」「6. 組織運営」「7. 施設整備」の 7 項目 24 の計画で構成し、本学の基本理念・教育像を示した「関東学院グランドデザイン」に基づき策定した総合施策です。

これら7項目と各計画のアクションプランが有機的に結びつき機能することで、本学の総合力を最大限に高め、これから先も「魅力ある大学づくり」「選ばれる大学づくり」を目指します。

1. 方針

第二期中期計画（2025-2029）では、特に本学が強調する「社会連携」において社会に必要とされる大学となるために、大学と社会の関係をさらに強化していきます。教育では、学生が現実の社会と密接に関わりながら「社会課題を発見する力」「情報を整理して問題解決に導く力」「多様な人々と協働する力」を養い、社会に貢献する人材を育成することを目指します。研究では、本学の持つ先進的かつ広範な研究力を活かして、様々な社会課題の解決に寄与していきます。また、企業や自治体、市民を対象とした学術セミナーやシンポジウムなどの知的活動を推進します。

校訓「人になれ　奉仕せよ」の理念の下、地域や社会と連携し、「知の拠点」としての役割を果たし、社会課題の解決と地域社会への貢献を推進します。

2. 概要

第二期中期計画（2025-2029）は、本学の基本理念・教育像を示した「関東学院グランドデザイン」に基づき、「第一期中期計画（2020-2024）」の成果を踏まえ、次の 24 の計画で構成しています。また、各項目のアクションプランは、検討状況や進捗状況等により適宜見直しを図り、急激な社会状況の変化にも対応していきます。

（1） 教養としてのキリスト教教育の充実と活性化
（2） 教学マネジメント体制の点検と教育の質向上のための展開（学部・大学院）
（3） 学修成果の可視化による学修者本位の教育の推進
（4） 大学院教育の充実のための研究科再編成の検討
（5） 組織的な研究支援体制による研究活動の活性化及び科研費等の競争的資金獲得の拡大支援
（6） 研究費不正防止対策の強化
（7） DX を活用した研究成果・学術資産の公開推進
（8） 多様化するキャンパスライフに寄り添う安心・安全な支援体制の再構築

（9） スポーツクラブ学生の生活支援強化や企業によるスポンサーサポート体制の仕組みの構築
（10） 大学と地域の交流・連携を推進するための組織的・継続的な仕組みの再構築
（11） 社会動向や学生ニーズに対応したキャリア教育、就職支援体制の整備と就職率・就職実績の向上
（12） 早期内定獲得に向けた就業観の醸成促進
（13） 高大接続改革への適切な対応
（14） 優秀な外国人留学生の獲得
（15） 編入学定員の適正化
（16） 戦略的な広報活動展開による認知度拡大とブランド力向上による志願者の獲得
（17） 産官学連携事業の推進～教育機関としての連携～
（18） 産官学連携事業の推進～研究機関としての連携～
（19） リカレント教育に係る推進計画の策定と推進
（20） 本学の理念等に即したシンポジウムや公開講座等の生涯学習プログラムの充実
（21） 安定的かつ持続的な財政基盤の確保～経常収支差額の改善～
（22） 災害時等の危機管理体制の強化と危機管理広報対応訓練の実施～事業継続計画の策定～
（23） 事務組織の機能強化と効率化のための再整備
（24） 既存施設の改修計画とキャンパス機能の再編成

これらのそれぞれの取り組みの詳細を一覧表にまとめて示します。

関東学院大学　中期計画　プロジェクト詳細一覧表

項目	計画	内容	2025	2026	2027	2028	2029
教育	①教養としてのキリスト教教育の充実と活性化	教養としてのキリスト教教育を充実させ、活性化を目指します。キリスト教の精神に基づき、「人になれ 奉仕せよ」の校訓のもと、次世代の社会を他者とともに創り上げる教養を有する人材を育成します。チャプレンが行う礼拝、チャペルコンサート、クリスマス行事などの学内行事や、キリスト教関連の正課授業、公開講座、講演会、演奏会などを通して学内外にキリスト教教育の魅力を発信していきます。 また、2022年4月に設置した学部横断型教育プログラム「キリスト教人間学インスティテュート」は、キリスト教の「精神」の理解を深め、異なる文化や価値観を知り、多様なものの見方や考え方を身につける「人間力」を育むプログラムです。学生は、所属学部の専門領域での学びに加え、同インスティテュートでの知識と理解を深めることで、複眼的な視点を養うことを目指します。 これら教養としてのキリスト教教育の充実と活性化によって大学の理念の実現に向けた施策を講じていきます。	現行のキリスト教教育プログラムの評価・強みと改善点の特定/学生、教職員からのフィードバック収集	教養としてのキリスト教教育の具体的目標設定・戦略とアクションプラン策定	学生に対するキリスト教教育の意義を伝え参加促進のためのキャンペーン実施	成果検証・評価と改善策提示/次期計画策定	
				「キリスト教人間学インスティテュート」の点検・見直し・改善/履修登録者拡大に向けたイベント等を開催しプログラムの重要性と成果を広報と認知度をアップ			
	②教学マネジメント体制の点検と教育の質向上のための展開（学部・大学院）	第一期中期計画において構築した全学的な教学マネジメント体制の点検を行います。あわせて、高等教育研究・開発センターの機能を強化し、FD・SDの一層の推進、教職員の間での教学情報の共有、教育ソースの相互利用を進め授業改善のための能力・技能の向上を図ります。また、教学IR機能を強化し、学生のDP達成度や蓄積された教学データを定常的に活用し、新たな目標として教育の質向上の取組みに在学生が参画することを推進します。	教学マネジメント体制の点検、評価の実施体制の点検	改善策の策定、実施	高等教育研究・開発センターの機能強化		成果評価と改善策策定
					教学IR機能の強化、および教育の質向上のための新たな取組みの検討および実施		
	③学修成果の可視化による学修者本位の教育の推進	現在、各学部で教育成果の把握に活用しているディプロマチャートを個々の学生が確認し、自らが修得した知識や能力等を把握し、学修を振り返り、そして学ぶというサイクルを構築します。この取り組みを促進するため、ディプロマチャートの学生の個票を発行するためのシステム構築、教務基幹システムの適切な更改、現行の授業改善アンケートの改訂などを実施すると同時に、GPAの利活用など学修の当事者である学生のモチベーション向上に繋がる新たな仕組みについて検討を進めます。	授業改善アンケートの改訂・実施、ディプロマチャートのシステム構築、教務基幹システムの更改			学生による学修状況の把握・振り返り・学びのサイクルの確立	拡充と普及促進/成果評価と課題の洗い出し・改善策
						次期計画策定	
	④大学院教育の充実のための研究科再編成の検討	社会の様々な分野で活躍する高度な人材（博士前期課程・修士課程）と研究者（博士後期課程）を育成するため、研究科の再編成を検討します。前者は、社会人として必要な能力の向上を図る「リカレント教育・リスキリング」に重点を置き、文科省の職業実践力育成プログラム（BP）を開発・充実します。後者は、これまで以上の研究・教育の実質化（教育課程の組織的展開の強化）を目指します。また、学士課程と博士前期課程の接続の強化、ダブルディグリー協定校の開拓、柔軟な学年暦導入(９月入学)によって、優秀な留学生を獲得します。これらの取り組みによって、入学定員を確実に確保します。	現状評価と産業界等のニーズ・社会の要望把握/目標設定/研究科の再編成の検討/ダブルディグリー協定校の新規開拓/９月入学導入の学内協議	研究科の再編成案の策定および新しいカリキュラムの策定と試行的導入/ダブルディグリープログラムの詳細策定・導入開始/９月募集開始/学士課程と博士前期課程の接続の強化/留学生に向けた支援プログラム充実・学習環境整備			５年間の総合評価と成果確認/次期計画の策定

項目	計画	内容	2025	2026	2027	2028	2029
研究	①組織的な研究支援体制による研究活動の活性化及び科研費等の競争的資金獲得の拡大支援	戦略的なリサーチ・アドミニストレーター(URA) の配置や大学院生、博士後期課程修了生などを活用した研究補助者（RA・PD）採用制度の整備などによって、組織的な研究支援体制を強化します。また、「科研費再応募支援経費」「論文投稿支援経費」「若手研究奨励制度」「科研費アドバイザー制度」などの活用を推進し、科学研究費補助金申請数及び採択数増加を含めた競争的資金獲得を拡大します。	研究支援体制と競争的資金獲得状況を評価、課題特定 具体的目標を設定/戦略とアクションプラン策定/URA、RA・PDの配置計画立案	戦略的なURAの配置、研究支援体制強化/大学院生や博士後期課程修了生をRA・PDとして採用する制度の整備・運用開始	研究支援体制の機能を拡充と普及促進/支援制度の普及促進/研修プログラムを拡充し、競争的資金獲得のためのスキル向上	研究支援体制と支援制度の運用状況を中間評価、目標達成度確認/研究者向けの教育・研修プログラムを充実させ、技術スキルの向上を図る。URA・RA・PD対象専門研修の実施、支援スキルの向上	最終評価と次期計画策定/成果を学内外に広報、研究機関等と共有
	②研究費不正防止対策の強化	研究費不正の防止に関する高い意識を持った組織風土を形成するため、不正防止計画の責任体系を明確化し、不正根絶に向けたコンプライアンス教育・啓発活動を通じて、全構成員（教員・学部生・大学院生・関係職員）への不正防止意識の浸透を図ります。また、監査機能の強化と不正を行える「機会」の根絶に取り組み、効率的かつ実効性のある不正防止対策を実現します。さらに、研究費不正防止活動と密接に関連する「利益相反」や「安全保障貿易管理」などの管理を徹底し、研究不正防止に努めます。	不正防止対策とコンプライアンス教育の状況評価・課題特定/不正防止対策の具体的目標・計画の設定	コンプライアンス教育の実施/啓発活動を展開 内部監査体制を強化/改善点の特定・対策/不正の機会根絶のためのプロセス改善/コンプライアンス教育プログラムを拡充/	定期的なセミナー等開催し啓発活動強化	不正防止対策の中間評価を行い目標達成度を確認/中間評価の結果を基に制度やシステムの調整/定期的な教育・啓発活動を継続	実施結果の総合的評価・成果確認/成功事例・改善点検証し次期計画に反映
	③DXを活用した研究成果・学術資産の公開推進	総合大学としての学問特性を踏まえ、DXを活用した研究成果や学術資産の公開を推進するため、研究成果公表の諸条件や関連規程などの整備を行います。また、学術資産目録・台帳の整備状況を確認し、画像などのDX化を推進します。	現状分析と目標設定 戦略策定と計画立案	必要な技術リソースと人材確保/教職員向けDX研修会開催/デジタルプラットフォーム導入/データベース・リポジトリの整備	過去の研究成果や学術資産をデジタル化し、プラットフォーム上で公開/デジタル化のための標準化手順を確立		機能拡大と普及推進/他大学等との連携強化/評価と次期計画策定

項目	計画	内容	2025	2026	2027	2028	2029
学生支援(学生生活)	①多様化するキャンパスライフに寄り添う安心・安全な支援体制の再構築	経済的支援や学生相談等の心身の健康を守る支援、障害を持つ学生に対する支援、個人情報管理、犯罪に巻き込まれないための指導やハラスメント防止への注意喚起等の取組みについて検証を行い、安心・安全に大学生活を過ごせるよう改善を図ります。また、休憩や談笑、グループディスカッション等、多様な性格を持つ個々の学生が気楽に立ち寄れるような居場所をキャンパス内に設置し、「滞在型キャンパス」の再構築を目指します。さらに、「学生満足度調査」とは別に定期的に「学生アンケート」を実施し、在学生による在学生のためのキャンパスライフモデルを実践します。「関東学院大学ワクワク計画」では、近隣企業や地域活動団体との企画を増やし、学生の実社会での経験強化を図ります。障害を持つ学生に対する支援については、授業や大学生活における情報保障・コミュニケーション上の合理的配慮を含めた必要な配慮、施設のバリアフリー化等を促進し、障害学生支援のさらなる充実、支援体制の整備を強化します。	学生満足度調査結果に基づく支援体制の検証、改善策・予算の検討、新企画の発案・関係企業・団体者間での交渉を継続して実施 窓口対応事例による傾向と対策の共有 学生ヒアリング／アンケート項目の選定 障害学生支援の実施状況の確認	各キャンパス居場所の選定 学生アンケートの実施方法の検討、導入実践・検証 合理的配慮に関する諸課題の整理	学生満足度調査・学生アンケートの調査・アンケート項目の検証・改変、学生アンケート「ワクワク計画」の次年度企画の選定・調整、告知、実施、フィードバックを継続実施 障害学生支援の充実、体制整備の検討と実行		今期の最終評価と次期計画の策定
	②スポーツクラブ学生の生活支援強化や企業によるスポンサーサポート体制の仕組みの構築	課外活動団体のガバナンス向上及び資金調達を強化することを目的に、課外活動団体を支援する一般社団法人を設立します。 大学のクラブを任意団体のままではなく法人化することにより、組織としてのガバナンスの構築、コンプライアンスの向上等（多数決による意思決定、決算報告、情報公開、納税等）が図られ学外より幅広く運営資金の獲得をすることが期待できます。 また、学校会計の範囲内では対応が困難である、団体への支出及び個人に対する支援など柔軟な対応が可能になります。 各部が独自に一般社団法人を設立するのではなく、大学として一つ、部活動全体を支援する一般社団法人を設立することを目指します。	課外活動団体の運営における課題整理／重要事項を洗い出し・法人化に伴う運営形態への影響の分析 他大学で設立している法人等の調査・ヒアリングの実施	設立準備／登録希望団体との調整、定款・諸規定の策定 法人組織としての収益増に関する実施案の策定及び実行	法人組織としての運用開始／運営に伴う課題等の洗い出し、改善策の検討と実行		実施結果の総合的評価・成果の確認／成功事例や改善点をまとめ、次期計画に反映
	③大学と地域の交流・連携を推進するための組織的・継続的な仕組みの再構築	学生のボランティア活動・地域貢献活動の支援などを通じて学生の成長に直接・間接に資する事業を実施します。また、コロナ渦で休止をしていた、地域交流会を再開するなど、地域社会との良好な関係づくりを行い、近隣自治体や企業等との関係を再構築し、地域との大学を繋ぐイベントや連携事業などを適宜再開します。	地域交流会開催等と併せて、地域・行政機関・地元関連企業などとの関係強化／過年度に実施したイベント等の見直し 地域・企業等と連携したイベント・企画等の策定と実施				実施結果の総合的評価・成果の確認／成功事例や改善点をまとめ、次期計画に反映

項目	計画	内容	2025	2026	2027	2028	2029
学生支援 (キャリア・就職)	④社会動向や学生ニーズに対応したキャリア教育、就職支援体制の整備と就職率・就職実績の向上	社会動向や学生ニーズを的確に捉え、学生の意向・能力・個性に応じたキャリア教育を充実させるとともに、社会人基礎力の育成を目的とした就職支援体制を強化します。 企業側のトレンドや動向を踏まえ、学修内容及び就職支援プログラムを適宜検証し、アップデートします。また、Uターン・Iターンを含む、優良企業求人情報の新規獲得を通じて学生の選択肢の拡大に取り組み、学校基本調査「学科系統分類別就職率平均値」の維持・向上を図るとともに、就職実績の質的向上を継続します。	状況評価・課題の特定 社会動向や学生ニーズを踏まえた具体的な目標を設定／学生の意向・能力・個性に応じたキャリア教育プログラムを設計	新しいキャリア教育プログラムを導入し、学生に提供／企業側のトレンドを踏まえた就職支援イベントやセミナーを開催	学生・企業からフィードバック収集・収集したデータを基にプログラム改善	優良企業求人情報の新規獲得に向けた活動の強化／Ｉターン・Ｕターン希望学生への支援プログラムを拡充	キャリア教育と就職支援体制の実施結果を総合的評価・成果確認／成功事例や改善点を次期計画に反映
			企業側のトレンドや動向を調査し学修内容・就職支援プログラムに反映				
	⑤早期内定獲得に向けた就業観の醸成促進	日本の生産年齢人口の減少や、採用直結型インターンシップ解禁などにより、企業の採用活動の早期化が一層進むことを受け、学生の進路選択への満足度及び就職先の量的・質的向上のため、早期活動スタートを支援します。 また、主体的な職業選択、職業意識の醸成を目的として、就職活動事前・事後のキャリア教育の拡充及び学部教育の実践・経験の機会提供として大学連携によるインターンシップ受け入れ先企業及び公共団体の拡大によって、教育効果の向上を図ります。	就職支援体制・インターンシッププログラムの状況評価と課題特定／就職先の質的・量的向上を目指す具体的目標の設定	大学主催インターンシップ先の拡大／企業等との連携強化 就職活動事前・事後教育プログラムの実施	キャリア支援プログラムの効果を評価・定期的ブラッシュアップ/学生の進路選択満足度を高める新しい取り組みを導入	中間評価による目標達成度確認・課題把握・改善策提示 学生からのフィードバックを基に支援内容の改善	最終評価と次期計画の策定／成果の広報と共有

項目	計画	内容	2025	2026	2027	2028	2029
入試（募集・広報）	①高大接続改革への適切な対応	高大連携協定校を中心に組織的な連携によって、実践的な「探究学習の場」、「大学の学びを体験できる機会」の提供や高校教員との合同研修会を実施します。これらを提供することで、高校生に高等教育を体験してもらい、スムーズに進路選択ができるように支援します。また、合同研修会では、高大連携活動や本学の選抜方法、３つのポリシー等の客観性、妥当性を高めることを目的に定期的に開催し、高校と大学が連携した高大接続教育の整備・改善を行います。	連携状況の評価・強み・課題の特定／高大接続改革に向けた具体的目標の設定	高校と連携した実践的な探究学習の場の提供プログラムの開発/高校生が大学の研究施設やリソースを活用	探究学習の場、大学の学びを体験できる機会を拡充/高校教員との合同研修会のテーマの多様化、教育の質を向上させる		実施結果を総合的評価・成果の確認/成功事例や改善点をまとめ次期計画に反映/成果を学内外に広報・認知度と評価を向上
			高校へ実践的な「探究学習の場」、「大学の学びを体験できる機会」を提供。合同研修会・意見交換会を通じて選抜試験や３つのポリシーの妥当性について定期的に検証				
	②優秀な外国人留学生の獲得	海外居住の優秀な学生獲得に向け、国際アドミッション活動の強化を図ります。ターゲット国・地域でのSNSによるプロモーションを展開。国際教育展示会や海外協定校での現地説明会への参加やターゲット国の母語版ウェブサイトを整備します。また、国内在住の外国にルーツを持つ高校生を対象とした選抜試験の実施、日本語学校推薦制度の改編、海外提携大学とのダブルディグリープログラムの充実、低学年時の日本語教育・生活支援の強化、日本人学生との交流プログラム促進、留学生アドバイザー・チューター制度の強化、帰国した留学生のネットワークの構築などと共に、留学生からのフィードバックの活用とデータ分析による広報活動や支援体制の見直しを行います。	国際アドミッション活動の状況評価・強みと課題の特定/ターゲット国・地域の選定・具体的な目標の設定	SNSによるプロモーションを展開/ターゲット国での認知度を向上/海外協定校での現地説明会に積極的参加	外国にルーツを持つ高校生対象の選抜試験の設計・実施/日本語学校推薦制度の改編/海外提携大学とのダブルディグリープログラムの充実	奨学金プログラムの拡充/日本語教育と生活支援の強化/交流プログラムの促進	最終評価/次期計画策定/成果の広報と他教育機関等との情報共有
			プロモーション計画の策定/ウェブサイトと情報提供の整備			留学生アドバイザー・チューター制度の整備	
	③編入学定員の適正化	多様な学習背景を持つ学生を受入れ、学内の多様性を促進する。編入学者選抜では、受験機会を確保するため、選抜方法や日程などを継続的に見直すとともに、教育内容や出口の可視化に努めます。また、海外指定校・国内指定校の実質的関係の再構築に向けた交流を行います。併せて、編入学生がスムーズに大学生活に適応できるよう個別オリエンテーションや学習支援の強化、編入学生との意見交換の機会を設け課題などを把握し、次期計画に反映させます。	編入学制度の状況評価・課題特定/選抜方法・日程等の見直し	海外指定校や国内指定校での募集活動強化/SNSやオンラインプラットフォームをを活用した広報強化	３年目の活動評価と目標達成度の確認/課題を洗い出し、改善策の実行	編入学制度の実施結果の総合的評価・成果確認／成功事例・改善点をまとめ次期計画に反映	
			海外指定校、国内指定校での学生募集活動の再構築/各指定校との連携強化	入学者への個別オリエンテーション実施/編入学学生との定期的な意見交換会開催・課題の把握/学生のフィードバックに基づいたサポート体制の強化			
	④戦略的な広報活動展開による認知度拡大とブランド力向上による志願者の獲得	幅広い学びの領域を持つ総合大学としての総合的な教育・研究力をアピールするため、戦略的な広報活動を展開します。 クロスメディアを活用したブランド広報として情報を発信し、広報戦略の進捗をモニタリングするなど、必要な戦術を展開します。また、入試広報とブランド広報を適切に組み合わせ、確実なターゲティングのもとで継続的な広報活動を展開するとともに、入学希望者の動向を分析しながら、その検証結果に基づいた広報戦略を構築します。	広報活動の状況評価・課題特定／認知度拡大とブランド力向上に向けた具体的目標設定		入学希望者の動向を分析し、ターゲット層に合わせた広報活動を展開	進捗を定期的モニタリングで目標達成度確認	総合的評価・成果確認／成功事例・改善点を次期計画に反映
			クロスメディアを活用した広報戦略の策定／入試広報とブランド広報を適切に組み合わせた広報計画の立案				

項目	計画	内容	2025	2026	2027	2028	2029
社会連携	①産官学連携事業の推進 ～教育機関としての連携～	本学が立地する横浜市金沢区・中区エリアや連携協定を締結している企業、教育・研究機関、行政機関等を中心に関係を深め、連携ネットワークを強化します。正課・正課外を問わず学生が多種多様な社会課題に取り組む『社会連携』に係わる教育を展開し、学生とともに企業、自治体、地域等との産官学連携事業を拡充します。また、これらの活動を広く社会に発信し、本学が強調する「社会連携」の認知度・評価を向上させるとともに、大学の教育研究活動を活性化させます。	現行の連携状況の評価・課題特定/具体的目標の設定 連携ネットワーク強化に向けた戦略・アクションプラン策定	「社会連携教育」に係る各種プログラム導入推進/学生が実際の課題に取り組む機会を提供する。 学生・連携パートナーからフィードバック収集/収集データを基に連携プロジェクトの振り返りと改善	連携プロジェクトの拡充/より多様な課題に取り組む機会の提供/学生の参加促進/連携事業の成果を学内外に広報・認知度と評価の向上	連携事業と社会連携教育の実施結果の総合的評価・成果確認/成功事例・改善点をまとめ、次期計画に反映 成果を学内外に広報し他大学や教育機関と共有	
	②産官学連携事業の推進 ～研究機関としての連携～	地域の課題解決に向けて、神奈川県や横浜市をはじめとする協定締結の企業、自治体、学校等との連携により、地域の特色を活かした取り組みを展開します。また、外部機関と連携しながら企業ニーズと本学シーズのマッチング、大学発ベンチャー支援の体制を整備し、共同研究、社会実装を推進します。さらに、社会連携のブランディングとして、研究成果の情報発信を行います。	現行の連携状況の評価・課題特定/具体的目標の設定 地域の特色を生かした取り組みや企業ニーズと本学シーズのマッチング戦略策定	地域の課題解決に向けた共同研究プロジェクト開始/共同研究・受託研究の推進に向け計画立案・実行 企業ニーズと本学シーズのマッチングイベント等を開催・共同研究の機会創出/参加企業や自治体からフィードバックを収集する。収集したデータを基にプロジェクト・連携の改善		研究成果の社会還元を推進し地域社会の発展に寄与/受託研究・共同研究の実施を通じ地域企業や自治体への連携強化	連携事業と共同研究の実施結果を総合的に評価・成果確認/成功事例や改善点をまとめ次期計画に反映
	③リカレント教育に係る推進計画の策定と推進	本学の強みやリソース等を踏まえた本学独自の「リカレント教育に係る推進計画」を策定し、推進計画、推進体制、提供する具体的テーマ・分野、実施後の評価・フォロー方針などを定めたうえでリカレント教育を推進します。また、企業・地域・産業界との連携によって、社会人や地域社会に必要とされる資質・能力を体系的にアップデートできる実践的かつ体系的な「リカレント教育プログラム」の開発・提供を推進します。さらに、履修証明プログラム、職業実践力育成プログラム（ＢＰ）の充実・開発に加え、キリスト教大学の強みを活かした市民開放型教育プログラム（例えばキリスト教人間学インスティテュートの開放等）を展開することで、本学独自のリカレント教育体制を構築します。	これまでのリカレント教育の成果・課題や二ーズを把握 推進計画の策定と具体的テーマ等の検討・決定と中期計画修正 履修証明プログラムの充実・開発、強みを生かした独自のリカレント教育の策定	学内各部局や企業・地域・産業界と連携し、リカレント教育プログラムを開発 社会人が地域社会に必要とされる資質・能力を獲得・アップデートするための実践的・体系的なプログラムの設計 履修証明プログラムや職業実践力育成プログラム（BP）の開発・充実/キリスト教大学の強みを活かした教育プログラムの展開	参加者や連携パートナーからフィードバックを収集/収集データを基にプログラムの改善/プログラムの拡充・多様な分野やテーマの提供	プログラムの実施結果を総合的に評価し、成果を確認する。成功事例や改善点をまとめ、次期計画に反映	
	④本学の理念等に即したシンポジウムや公開講座等の生涯学習プログラムの充実	本学の理念に基づき、最新の研究成果を還元する地域市民向けのシンポジウムや公開講座等の生涯学習プログラムの充実を図ります。また、科目等履修制度や大学院長期履修制度など、社会人向け教育プログラムやシンポジウム、公開講座等、多種多様な生涯学習の場を提供し、本学の認知度と評価向上に努めます。	現状分析と目標設定/戦略策定と計画立案/リソース確保 本学の理念や最新の研究成果に基づいた公開シンポジウムの開発/社会一般の教養をわかりやすく伝える公開講座の設計	各種プログラムの連携による受講生の拡大/社会人が生涯学習プログラムに参加しやすい環境の整備/参加者や講師からフィードバック収集する。プログラムの改善		成果を学内外に広報し、認知度と評価を向上/評価と参加者の学びの成果を把握・次期計画策定	

項目	計画	内容	2025	2026	2027	2028	2029
組織運営	①安定的かつ持続的な財政基盤の確保～経常収支差額の改善～	適切な財務運営により、経常収支差額の改善を図ります。学生のための教育環境や、安全・安心な大学づくりのために必要な経費を適切に予算化します。また、教育活動における収支均衡を健全に維持します。安定かつ持続可能な財政基盤を確立するために、継続的な経常収支の黒字化を目指し、全国1万人以上70法人の全国平均以上の経常収支差額比率を目標値とします。	前年度決算及び中期計画・事業計画ベースによる大学予算案の策定	継続的な収益増加策と経費削減策の効果を評価し、改善点を特定	経常収支差額の改善状況を評価／目標達成度を確認	財政運営の実施結果を総合的に評価／成果の確認／成功事例・改善点をまとめ次期予算案の立案	
			継続的な経常収支黒字化予算を執行・予算執行管理、経常収支差額比率の目標到達値の確認				
	②災害時等の危機管理体制の強化と危機管理広報対応訓練の実施～事業継続計画の策定～	南海トラフ地震などによる大規模自然災害や感染症等のパンデミックの発生、また、長時間の停電等による通信障害やシステム障害発生時など、それらの要因による事業への影響分析を行い、対応すべき重要事項を洗い出した上で、実効性のある事業継続計画（BCP）を策定します。また、組織としての「危機管理広報対応能力」を高めるために、危機に直面した際に適切な広報対応を行うことができる体制を整備します。緊急時の情報の流れを確認・見直すと同時に、危機対応能力を高めるための「危機管理広報対応訓練」を実施します。	あらゆる危機のリスクを評価し事業への影響の分析／重要事項を洗い出し	実効性あるBCPの策定／役割と責任を明確化	BCPの試行的実施／実効性検証と試行結果によるBCPの改善点洗い出し	BCP・危機管理広報対応の中間評価／目標達成度の確認	BCP・危機管理広報対応の実施結果の総合的評価／成果確認／成功事例・改善点を次期計画に反映
			危機管理広報対応訓練の実施／訓練のシナリオを作成し、実際の災害や緊急事態をシミュレーション	危機管理広報対応マニュアルの整備・対応訓練の実施		訓練の定期的な実施による広報対応能力の向上	
	③事務組織の機能強化と効率化のための再整備	本学の持続的な発展と教育・研究活動の円滑な推進を目指し、事務組織の機能や業務改善の取り組みについて継続的に検証し、これまでの事務処理方法やアウトソーシング体制、人員配置などの見直しを行います。また、IT技術を活用した業務効率化ツールの導入や職員のスキル向上を図り、全体の生産性を向上させることを目指します。これにより、適正かつ効率的な事務組織への再整備を実現し、大学運営の質的向上を図ります。	各部門の事務処理方法の非効率プロセスを特定	事務作業の電子化・ペーパーレス化の推進／迅速かつ正確な事務処理の実現		職員からのフィードバックを定期的に収集・改善点の特定	成功事例・ベストプラクティスの共有／ 事務組織の改革を推進するための継続的な取り組みの検討
			IT技術・システムを活用した事務処理のデジタル化導入	現行アウトソーシング契約の見直し費用対効果の高い外部リソース活用を検討／内製的業務と委託業務の評価・見直しにより内部リソースの最適化を図る			
				各部門の業務量と人員配置を分析・適正な人員配置を再検討／業務の繁閑に応じた柔軟な人員配置を行い、リソースの最適化を図る			

項目	計画	内容	2025	2026	2027	2028	2029
施設整備	①既存施設の改修計画とキャンパス機能の再編成	キャンパスにおける教育・研究環境の改善及び老朽化施設への対応のため、室の木地区の既存施設改修の必要性を踏まえ、複数年による「改修計画」を策定し、キャンパス機能の統廃合・再配置を含め、施設・設備を有効活用できるよう最適な改修工事を実施します。また、減築建物跡地の再整備等を行い、機能性の高いキャンパスへ再編成します。併せて六浦地区のPC教室統廃合、２号館の有効利用策の検討、その他老朽化建物の今後の取り扱いについて検討します。	施設状況の評価・朽化、機能性の課題特定／具体的目標の設定 施設部と連携しキャンパス機能の統廃合・再配置計画の立案	室の木地区の既存施設の改修工事を開始／施設・設備の統廃合・再配置／減築建物跡地の再整備計画の具体化・実施 PC教室の統廃合・再配置工事開始／２号館施設の有効利用策を検討・具体的活用プラン立案・改修工事開始		改修工事を継続・進捗管理／安全性と機能性の評価を行い必要な調整を実施	改修工事とキャンパス再編成の実施結果の総合的評価／成果確認と成功事例・改善点を基に次期計画立案

関東学院中学校高等学校 中期計画（2025-2029）

校長　森田 祐二

「VUCA 時代」という言葉が一般的となった現代社会は、AI の急速な発展、DX の加速、そして持続可能な開発目標（SDGs）が世界共通の課題として認識されるなど、予測困難な変化が加速しています。このような社会において、本校は、イエス・キリストを土台とするスクールモットーに基づき、複雑化する社会問題に対して主体的に関わり、多様な価値観を持つ人々と協働しながら、より良い未来を創出できる人材育成を目指します。以下に、教育の理念、目標、使命に立ち方針を掲げます。

教育理念

イエス・キリストを土台とするスクールモットー「人になれ　奉仕せよ」を具現化し、神様から与えられた力を十分に伸ばし、その力を社会のために、他者と共に用いて未来を切り拓く、知恵と勇気を持つ人を育てます。

教育目標

1. 聖書の教えを通して、人が生きていくうえで大切にすることを選択する判断力を持つ人を育成します。
2. 質の高い授業を通して得る知識や技能を用いて、将来設計を組み立てる思考力を持つ人を育成します。
3. 21 世紀共生社会の担い手として行動できる人を育成します。

使命

人は世相によってめまぐるしく変化する価値観のなかで生きていくことが課せられています。あらゆる局面の中で要求される選択と集中の場で、何を大切にするかという価値観をしっかりと持っていれば、その判断はゆるぎないものとなります。その価値観とは、イエス・キリストが示した生き方、他者とともに生きることを大切にすることです。そしてともに生きるのに必要な力、専門的な知識や高い技能と併せて他者を思いやる心と知恵を持ち、判断力・思考力・行動力を備えた人を育成し、各人が卒業後の進路で自ら培った知恵と力を発揮させることを 21 世紀共生社会における使命とします。

1. 方針

2025 年からの中期計画では、急速に変化する社会や技術の進展に対応するため、生徒一人ひとりの個別最適な学びと、協働的な学びの推進を重視します。特に「個別最適化」と「協働的探究活動」を柱とした新しい学びの形を提供することで、生徒たちが自主的かつ協働的に問題解決に取り組む力を育てます。

（1）進学準備教育の強化

生徒が志望する国公立大学・私立大学に進学できるよう、個別の学力を最大限に伸ばす教育体制

を強化します。特に探究型学習を導入し、入試に対応する力だけでなく、問題解決能力や論理的思考力も育成します。

（2）デジタル・トランスフォーメーションを推進する「Olive STREAM 3.0」

デジタル技術や AI を活用した教育プログラムを通じて、論理的思考力と創造性を育む「Olive STREAM」をさらに深化させ、デジタル時代に対応するスキルを養います。R,M について再構築します。

（3）人間性を育む多様な学びの機会の創出

国内外の異文化交流や国際・地域社会との連携を通じて、他者との協働やコミュニケーション能力を育て、多様性を尊重する社会の一員としての意識を高めます。また生徒が多様な価値観や視点を学ぶため、著名人や専門家を招いた講演会を定期的に開催します。

（4）施設設備の拡充と学習環境の改善

生徒がより快適に学習に取り組めるよう、最新の ICT 設備を整備し、既存の教室や校内施設の改善を行います。

2. 概要

本中期計画の概要として、生徒の進路選択を支える進学準備教育と「Olive STREAM 3.0」の強化に重点を置きます。また、個別最適化された学習と協働的な学びを支援するため、ICT を活用した多様な学びの場を提供します。さらに、他者との協働を通じた学びを通して、グローバルな視点と地域社会に貢献する意識を養うためのプログラムを策定します。

（1）Olive STREAM 3.0 を基盤とする教科・教養学習の深化

Religion（宗教－ボランティアマインドの育成），Math（数学）のプログラムを再構築し、さらに芸術やデザイン、デジタル技術などの要素を統合することで、生徒が多角的な視点を持って学びに取り組めるよう支援します。

（2）メディカル・プログラムのさらなる充実

医療系進路を目指す生徒向けのプログラムをさらに拡充し、専門的な知識とスキルを高めます。また大学、企業との連携により得られる学びの機会を生徒にとって有意義なものとします。

（3）AI・データサイエンス教育に向けての実践的な活動

AI・データサイエンスの基礎知識を習得し、プログラミングなどを通して実践的学習、課題解決力の向上を図ります。また、AI 技術の倫理面や社会的影響についても学び、社会に貢献できる人材育成を目指します。

（4）グローバル教育プログラムの強化

海外研修や留学プログラム（生徒・教員向け）をさらに充実させ、生徒・教員が異文化理解やグローバルな視点を持てるようにします。とくにイングランドにおけるイートン校、ラグビー校プログラム、姉妹校の長榮高級中学プログラム、また神奈川県私学協会が提携関係にある UMBC について連携強化を図ります。

（5）学びの成果を社会とつなぐ場の創出と国際的視野の育成

学内外でのプレゼンテーションやコンテストなど、生徒が学びの成果を実際に発揮する場を提供します。探究学習、教科学習で得た研究成果を学内外で発表し、社会からの評価を得ることを目指します。また生徒の視野を広げ、学びの動機付けを強化するため、国内外の著名な研究者や実業家、文化人を招いた講演会を企画します。これらを探究型学習の成果発表や意見交換の場としても活用します。

（6）インクルーシブで多様な社会に向けての教育の推進

多様な背景を持つ生徒が共に学び、成長できるインクルーシブな教育環境を整備します。地域社会との連携を強化し、ボランティア活動や地域貢献活動を通じて、社会の一員としての自覚を養います。

（7）学内施設の改善と拡張

より充実した学習環境を提供するため、施設の整備や新設を進めます。特に体育施設の更新、メディア・ライブラリー、ラーニング・コモンズの整備について早急に検討し、在校生の希望進路実現をフォローします。

これらのそれぞれの取り組みの詳細を一覧表にまとめて示します。

関東学院中学校高等学校　中期計画　プロジェクト詳細一覧表

分類	項目	項目の内容（概要・狙い・到達目標等）	2025	2026	2027	2028	2029
教育	Olive STREAM 3.0を基盤とする 教科・教養学習の深化	Religion（宗教－ボランティアマインドの育成）, Math（数学）のプログラムを再構築し、さらに芸術やデザイン、デジタル技術などの要素を統合することで、生徒が多角的な視点を持って学びに取り組めるよう支援します。	教務部・進路進学指導部と連携しプラン策定	模擬試験、検定試験等による点検・評価	個別最適化、協働的探究活動の点検・評価	Olive STREAM 3.0 再点検・評価	教科目標値への到達
生徒支援	メディカル・プログラムのさらなる充実	医療系進路を目指す生徒向けのプログラムをさらに拡充し、専門的な知識とスキルを高めます。また大学、企業との連携により得られる学びの機会を生徒にとって有意義なものとします。	進路進学指導部と連携しプラン策定	大学病院、救急救命センター等においての医療体験実施	医系大学・医系予備校との情報交換、さらなる連携	メディカル・プログラム再点検・評価	実績目標値への到達
生徒支援	AI・データサイエンス教育に向けての 実践的な活動	AI・データサイエンスの基礎知識を習得し、プログラミングなどを通して実践的学習、課題解決力の向上を図ります。また、AI技術の倫理面や社会的影響についても学び、社会に貢献できる人材育成を目指します。	教務部・進路進学指導部・各教科会と連携しプラン策定	研究・開発の継続と外部への情報発信	点検・評価、外部への情報発信	導入後の点検と評価	実績目標値への到達
教育	グローバル教育プログラムの強化	海外研修や留学プログラム（生徒・教員向け）をさらに充実させ、生徒・教員が異文化理解やグローバルな視点を持てるようにします。とくにイングランドにおけるイートン校、ラグビー校プログラム、姉妹校の長榮高級中学プログラム、また神奈川県私学協会が提携関係にあるUMBCについて連携強化を図ります。	海外交流委員会・教務部と連携しプラン策定	点検・評価、さらに研究・開発を継続	点検・評価、さらに外部への情報発信	導入後の点検と評価	新たな研究・開発プラン策定
社会連携	学びの成果を社会とつなぐ場の創出と 国際的視野の育成	学内外でのプレゼンテーションやコンテストなど、生徒が学びの成果を実際に発揮する場を提供します。研究成果を学内外で発表し、社会からの評価を得ることを目指します。また国内外の著名な研究者や、文化人を招いた講演会を企画します。これらを探究型学習の成果発表や意見交換の場としても活用します。	教務部・進路進学指導部・校外学習検討委員会と連携しプラン策定	点検・評価、さらに研究・開発を継続	点検・評価、さらに外部への情報発信	導入後の点検と評価	新たな研究・開発プラン策定
社会連携	インクルーシブで多様な社会に向けての 教育の推進	多様な背景を持つ生徒が共に学び、成長できるインクルーシブな教育環境を整備します。地域社会との連携を強化し、ボランティア活動や地域貢献活動を通じて、社会の一員としての自覚を養います。	宗教部・生活指導部と連携しプラン策定	各機関と調整しつつ導入、外部への発信	点検・評価、さらに研究・開発を継続	導入後の点検と評価	新たな研究・開発プラン策定
環境整備	学内施設の改善と拡張	より充実した学習環境を提供するため、施設の整備や新設を進めます。特に体育施設の更新、メディア・ライブラリー、ラーニング・コモンズの整備について早急に検討し、在校生の希望進路実現をフォローします。	教務部・進路進学指導部・生活指導部・事務局と連携しプラン策定	各機関と調整しつつ施設の整備・改善実施	さらに整備・改善を継続	整備後の点検と評価	新たな整備・改善プランの策定

関東学院六浦中学校・高等学校　中期計画（2025-2029）

校長　　黒畑　勝男

六浦中学校・高等学校の 2025 年からの中期計画は、2015 年度から進めてきた諸改革による教育実践をより鮮明に、六浦中・高の特色として内実化を進めることとします。教学の大目標を「キリスト教の精神に基づく校訓「人になれ　奉仕せよ」を主体的に実行できる人を育てる」ところに据えます。同時に、急激に進行する少子高齢化による国内状況の変化と気候変動や国際情勢を踏まえて、「VUCA が予想される国内・国際環境の中でしっかりと自立できる地球市民としての力の基礎を育てる」ことを各教育事業の中で具体的な目標と掲げ計画を推進します。

六浦中・高は、2014 年度から入学者減が始まり、2018 年度には定員の 63％の入学者数を経験しています。しかし、社会の大きな変化の兆しを眺め、2014 年度から新しい学習指導要領の趣旨を先取りする教育を展開してきました。現在、授業のルーティーンでのプラットフォームの ICT 環境と Google を活かして先進的で合理的な授業や学び方を進めています。

したがって 2025 年度からの中期計画では、これまでの改革の流れに立ち、「主体的な学び」をいっそう推進し多彩な進路の実現を目指します。ただ、現在至っている英語教育のみでの特色から、24 年度にスタートした理数系での教育重点化も強みとなるよう進めます。また、寮には世界から多様な生徒が集まる「小さな地球」という特徴を魅力的な特色として進めます。新しい学びの環境と実態のある国際性で調えていきます。

教育理念

「人になれ　奉仕せよ」の校訓のもと、キリスト教を土台にした人間教育を行い、隣人愛の精神に立ち、他者を思いやる心と奉仕の精神を育みます。また、幅広い知識・教養を身につけ多くの実学的経験を重ねることによって、主体的な行動力を持つ人類社会に貢献できる人を育てます。

教育目標

1. 「共に励まし合う」人の育成
2. 「社会に奉仕する」人の育成
3. 「平和を尊重する」人の育成
4. 人口減少で変わる日本国内、関係する国際社会で「国を越えて活躍する」人の育成

使命

1. 自ら解決すべき課題を見出し、解決に向かって主体的で対話的に努力する力を育てる
2. 国際的視野を持ち共同的な活動を通して、平和で持続可能な社会を創る力を育てる

1. 方針

六浦中学校・高等学校の概ね5年間の中期計画の方針として、キリスト教教育の浸透のために、礼拝・聖書の授業等、キリスト教教育全般を意識して大切にする体制を構築します。

また、生徒一人ひとりが持っている個性と才能を引き出し、広い視野と大きな志で勇気をもって変化の読みにくい社会で活躍する力と気力を育てることを方針とします。そのために必要な堅実な学びを最新の教育環境の中で推進し、素直でかつ強い探求心を以って学び、自走的に真摯な姿勢で活動する心

を育てます。

世界を経験し非日常の世界を実学的に知る生徒を増やすことで、生徒集団の中で無意識的に形成されがちな同調圧力や付和雷同的に単一的思考へ収斂する傾向を抑制し、主体的に生きようとする意欲を育てる環境づくりに邁進します。そのために以下の項目を掲げて進めていきます。

(1)キリスト教教育の充実
(2)英語教育のさらなる充実と理数教育の強力推進
(3)教員の授業力・指導力の研鑽・向上
(4)ICT 環境の推進と活用レベルの高度化
(5)帰国子女と国際生の受け入れ拡大と海外留学の推進
(6)広報活動の充実と受験生の倍増
(7)施設・設備の充実

2. 概要

現在、中学入学での院内入学生の大幅な減少と高校からの入学生の増加で、生徒が校訓を深く理解する上で重要な、全ての教育で前提とするキリスト教精神の基本的な共通認識の不揃いが小さくはない課題となっています。六浦中学校・高等学校の中期計画では、あらためてキリスト教に関する基本的教育を展開することに光を当てます。また、高度な運用力の獲得を目指す英語教育では、目的の明確化と達成基準の厳格化と現実的な適用が必要であると考えています。また、新しい学び方の推進では、教員の教科横断的なファシリテートの力や効果的な指導力の増進のための教員研修が必要です。ICT を積極的に活用する授業では、教員の Google 指導者認定資格取得を推進します。また、数年後に激進する少子化での将来の国際化の進行への対策として、帰国子女や国際生の受入れを積極化します。少子化に対しては学校評価の向上での受験者数増が必須です。それと共に「寮教育」担当の育成も課題です。こうしたことを認識して具体的な取り組みを展開します。これらの実現のため以下の項目を掲げて取り組んでいきます。

(1)校訓の意味を日常的に考えるための場面の最適化と実質化
(2)英語教育法での前進と学齢別到達目標のより明確な提示
(3)理数教育の底上げと積極的な能力別指導体制の推進
(4)中・高それぞれにおける探究型授業とそれを支える教科教育
(5)教育力量の向上を目指す校内研修のいっそうの推進と校外研修への参加の奨励
(6)帰国子女の入学増に向けた海外日本人学校との連携の強化
(7)目的の明確な国際生の受入れとそのための進学のルート付け
(8)進学実績の伸長による効果的広報活動の展開と倍増計画
(9)BPO による教育環境の補完と内容の充実
(10)海外留学制度の見直しでの増進と海外大学への進学推奨
(11)学校の運営全体を合理的に進めるための組織の改善推進
(12)安心安全で衛生的な学校運営に必要な環境整備

これらのそれぞれの取り組みの詳細を一覧表にまとめて示します。

関東学院六浦中学校・高等学校　中期計画　プロジェクト詳細一覧表

分類	項目	項目の内容（概要・狙い・到達目標等）	2025	2026	2027	2028	2029
教育	（1）校訓の意味を日常的に考えるための場面の最適化と実質化	①内進生、中学入学生、高校入学生のキリスト教へのレディネスの差異への対応、礼拝のあり方、聖書科の授業の工夫 ②礼拝説教者の「学校におけるの礼拝」でのメッセージの意味の理解の要請 ③ボランティア活動の積極的な展開と生徒へのアピール、参加生徒の変容の共通理解の浸透	①～③宗教主任、聖書科による 積極的策定	2025年の継続			
生徒支援	（2）英語教育法での前進と学齢別到達目標のより明確な提示 （3）理数教育の底上げと積極的な能力別指導体制の推進 （4）中・高それぞれにおける探究型授業とそれを支える教科教育 （5）教育力量の向上を目指す校内研修のいっそうの推進と校外研修への参加の奨励	（2）教授法CLILの点検、学齢別での到達目標の設定と高校進学基準への連動、高校進学時の英語力の徹底的担保 （3）中学１年次での数学教育の能力別での展開と推進 （4）「地球市民」「探究」に関する学校組織全体での点検 （5）校内教員研修の充実と校外研修への組織的参加の推進	（2）中2、中3での英検4級、3級取得の義務化と 有料補習システムの構築 （3）中1計算力試験等の導入の検討と中3修了時の 60-60計画への行動計画の策定 （4）進路指導的観点を入れての点検 （5）教学推進部による推進	2025年の継続			
入試 （募集・　広報）	（6）　帰国子女の入学増に向けた海外日本人学校との連携の強化 （7）　目的の明確な国際生の受入れとそのための進学のルート付け （8）　進学実績の伸長による効果的広報活動の展開と倍増計画	（6）　2024年度までの連携日本人学校の関係強化と新規開拓 （7）　神奈川歯科大・関東学院大工学部へ進学を希望する国際生の受入れの推進 （8）　国内大学への進学実績の積み上げと海外への進学者比率を高め、HPなどSNS上での発信情報の充実	（6）日本人学校指定校推薦枠の差別化のよる 推進へ切り替え （7）両大学との検討着手 （8）進路指導部の指導方針の見直しと活性化	2025年の継続			
社会連携	（9）　BPOによる教育環境の補完と内容の充実 （10）　海外留学制度の見直しでの増進と海外大学への進学推奨	（9）　2024年度提携のEducational Network、LIFE IS TECH社、SBI証券などとの継続と発展 （10）　2024年度で年間100名を超える留学渡航での基準の見直し（引き上げ）での増進と海外大学進学希望者へのサポート（BPOでの連携の状態の強化）	（9）2024年度からの継続と推進 （10）1年間留学希望者の増による不安要素の増加から、 帰国後の学力担保を事前に考慮する基準の三段階化の 検討と策定	2025年の継続			
組織運営	（11）学校の運営全体を合理的に進めるための組織の改善推進	①ICTの活用状態の整理と改善、合理化の推進 ②教員組織、分掌の適宜の編成し直しや改廃、特に寮教育の組織化	①ICT活用での教員間のリテラシー差の解消に 向けた取り組み ②国際募集に関する業務の組織化と寮教育の組織化	2025年の継続			
環境整備	（12）安心安全で衛生的な学校運営に必要な環境整備	本校の財務状況に照らしての運営	施設建設プロジェクトでの検討				

関東学院小学校　中期計画（2025-2029）

校長　　岡崎　一実

2025 年に創立 73 周年をむかえる関東学院小学校は、キリスト教にもとづく人間教育を理念とし、校訓「人になれ 奉仕せよ」のもと、「夢を育む学校」として神と人と社会に仕える人間を育てることを教育理念とする私立小学校です。近年は、「関東学院グランドデザイン」（2011 年）、「中期目標と計画（Olive7）」（2012 年）、「未来ビジョン」（2017 年）、「中期計画」（2020 年）および毎年度の事業計画・重点事業に示した基本方針と具体的施策のもと、「子どもたちの笑顔のために」をモットーにあゆみをすすめており、2022 年の創立 70 周年を契機に学校のけしきがかわり、その成果を土台に 75 周年、そして 100 周年にむけて伝統をたいせつにしつつ変革に挑戦してさらなる発展をめざしているところです。ひきつづき、6 年間の学習・生活を通じて人格の芯を形成し、たくさんの“夢のたまご”を見つけてとびきりの笑顔で小学校を卒業していく、そんな子どもを育てる学校であることをめざして「中期計画（2025-2029）」を策定します。

1. 方針

「中期計画（2025-2029）」では、「未来ビジョン」（2017-2024 年度）、「中期計画（2020-2024）」の柱としてきた 3 項目に 1 項目をくわえた 4 項目の柱のもと、13 の具体的施策をたてて必要に応じて各年度の事業計画・重点事業に位置づけ、施設建設プロジェクト、政策支援経費制度と連動させてとりくむこととします。

（1）「夢を育む学校」の教育の創出をめざします。
（2）　豊かな学びと生活を保障する環境整備をすすめます。
（3）時代の変化に対応した入試広報活動の構築をはかります。
（4）三春台ブランドのリブランディングをめざします。

2. 概要

（1）「『夢を育む学校』の教育の創出」は教育内容にかかわるもので、①～⑥の施策にとりくみます。ICT 機器を活用した教育をいっそう推進するとともに（②）、「夢たまご」プログラムを通じて関東学院小学校の特色ある教育活動を創出し、充実させます（③）。また、2030 年度の改訂が予想される次期学習指導要領を視野に入れ、「夢を育む学校」を具体化する本校の質の高い教育課程を編成します（④）。世代交代をみすえた研修体制（⑤）と組織体制（⑥）を推進・再編して学校の教育力の向上をめざすとともに、キリスト教教育の再構築をはかります（①）。

（2）「豊かな学びと生活を保障する環境整備」では⑦～⑨の 3 つの施策をとりあげます。日常の学習にかかわる備品（⑦）から教室棟（1997 年竣工）・管理棟（2014 年竣工）のメンテナンス（⑧）まで、先進的な教育活動をささえ教育効果をあげるために教育環境のいっそうの整備・充実に私立学校の特性をいかして計画的にとりくみます。小中高共用の新体育館の建設と旧体育館の解体・校庭整備についても期間内の着工・完成をめざします（⑨）。

（3）「時代の変化に対応した入試広報活動の構築」では⑩～⑪の施策をたて、専願・第一志望による

入学者を安定的に確保して学則定員を充足するため、入試広報行事(⑩)と入試広報ツール(⑪)を見直し、「ほんの学校」「ICT 機器を活用した教育」「『夢たまご』プログラム」「『選ぶ』をコンセプトに据えた教育」など、「夢を育む学校」である関東学院小学校の魅力や独自性のアピールに戦略的にとりくみます。

(4)「三春台ブランドのリブランディング」に掲げた⑫～⑭では、近年のとりくみによってホスピタリティあふれる学校として得るにいたった一定の評価を精査しいっそう高めるとともに、これまで追求してきた地域にささえられた三春台の関東学院小学校というブランドをリブランディングして、関東学院小学校らしさがいっそう醸し出された魅力ある私立小学校を目指します。2027 年度に迎える創立 75 周年記念事業(⑭)に 80 周年、さらには 100 周年をみすえてとりくむとともに、“オリジナル”の開発・提供(⑫)と(1)～(3)の柱のもとに実施する各施策により創意あふれるサプライズを毎年継続的に提供し(⑬)、常に変わり続けている学校をアピールできるよう計画的な運営をすすめます。

(1)『夢を育む学校』の教育の創出

① キリスト教教育の見直しと新たな展開
② ICT機器を活用した教育の推進
③ 「夢たまご」プログラムの実施
④ 新しい教育課程の編成
⑤ 次代を見すえた研修の推進
⑥ 校務分掌と組織体制の見直しと再編

(2)豊かな学びと生活を保障する環境整備

⑦ 備品と情報基盤の整備充実
⑧ 施設設備の更新と校舎改修
⑨ 新体育館の建設

(3)時代の変化に対応した入試広報活動の構築

⑩ 広報行事の新たな展開
⑪ 広報ツールの開発と活用

(4)「三春台ブランドのリブランディング

⑫ 関東学院小学校オリジナルの開発
⑬ 毎年イノベーション
⑭ 創立 75 周年記念事業

これらのそれぞれの取り組みの詳細を一覧表にまとめて示します。

関東学院小学校　中期計画　プロジェクト詳細一覧

分類	項目	項目の内容（概要・狙い・到達目標等）	2025	2026	2027	2028	2029
教育	(1)①キリスト教教育の見直しと新たな展開	現行の礼拝、カリキュラム等を見直し、キリスト教教育をいっそう充実させ強固なものとする。		見直し	再編・試行	実施・検証	
教育	(1)②ＩＣＴ機器を活用した教育の推進	ＩＣＴ機器を活用した教育をすすめるとともに、今後の方向性を検討して実施する。	活用 方向性の検討	実施・運用・見直し	未定		
教育	(1)③「夢たまご」プログラムの実施	2024年度に作成した「夢たまご」プログラムの年間計画をふまえ、年度ごとにプログラムを検討して充実させ実施する。	カリキュラムにもとづき毎年実施 ＊見直し ＊新規事業の検討実施				
組織運営	(1)④次代を見すえた研修の推進	校内研修と個人研修の体制を充実発展させて教職員の力量形成をめざし、学校の教育力の向上をはかる。	立案検討・実施	実施・運用・見直し	未定		
教育	(1)⑤新しい教育課程の編成	2030年度完全実施が予想される次期指導要領を視野に入れ、あたらしい教育課程を立案、試行実施する。	新指導要領の骨子の検討	本校教育課程の検討	本校教育課程の立案	新教育課程の先行(試行)実施	
組織運営	(1)⑥校務分掌と組織体制の見直しと再編	現行の校務分掌と組織体制を見直し、次代にふさわしい学校運営をめざす。		見直し	再編・試行	実施・検証	
環境整備	(2)⑦備品と情報基盤の整備充実	備品および教育情報機器を計画的に購入・更新し、教育環境と情報基盤を整備充実させる。	立案・検討・実施 ＊教員用iPad更新 ＊児童用iPad更新の検討 ＊プロジェクタ更新の検討	立案・検討・実施 ＊児童用iPad更新 ＊教室プロジェクタ更新	立案・検討・実施 ＊教員用iPad更新の検討	立案・検討・実施 ＊児童用iPad更新の検討 ＊教員用iPad更新	立案・検討・実施 ＊児童用iPad更新
環境整備	(2)⑧施設設備の更新と校舎改修	教室棟・管理棟の改修・メンテナンスの年次計画を立てて実施し、教育環境を改善充実させる。	立案・検討・工事・完成 ＊児童用暖房便座設置	立案・検討・工事・完成 ＊教室棟メンテナンス		立案・検討・工事・完成 ＊管理棟メンテナンス	立案・検討・工事・完成
環境整備	(2)⑨新体育館の建設	あたらしい体育施設の建設にむけてとりくむとともに、竣工後の具体的な運用方法、現体育館の解体と跡地整備等について検討する。	学内調整 資金計画	基本設計	実施設計	工事	工事・運用準備
入試	(3)⑩広報行事の新たな展開	現行の入試広報行事の年間計画を時期設定・回数・内容などの観点で見直し、来校者増をはかる。	見直し･企画立案･実施･検証				
入試	(3)⑪広報ツールの開発と活用	現行の入試広報ツールの運用を効果や有効性の観点から見直し、より効果的な方法・媒体により、多くの小学校受験家庭にアプローチできるようにする。	見直し･企画立案･実施･検証				
その他	(4)⑫関東学院小学校オリジナルの開発	関東学院小学校ならではのオリジナル品を開発・提供し、学校の魅力を高める。	企画立案･実施				
その他	(4)⑬毎年イノベーション	中期計画の各プロジェクトを「イノベーション」ととらえてインパクトのある変革を継続的に実施し、常に変わり続けている学校をアピールする。	他プロジェクトと連動させて毎年の「イノベーション」を企画立案、実行				
その他	(4)⑭創立75周年記念事業	2027年度にむかえる創立75周年の記念事業を実施し、伝統をたいせつにしつつ変革に挑戦する学校としてさらなる発展をめざす。		企画立案	実施		

関東学院六浦小学校　中期計画(2025-2029)

校長　黒畑 勝男

六浦小学校の 2025 年度からの中期計画では、キリスト教の精神に基づいた教育により、校訓「人になれ 奉仕せよ」の意味を自身で考え実行できる児童を育てることを大目標とします。

校訓「人になれ 奉仕せよ」の具現化を目指した教育事業の展開、教育目標の「喜びを分かち合う」心の育成、児童一人ひとりを尊重した教育の充実を目指し、教育環境の整備を進め、広報活動の効果的取り組みによる児童数の増加に取り組みます。

児童は本校を卒業して 10 年後には大学卒業の社会人となる年齢を迎えます。大きく変わることが予想されるその時代に自主自律で生きて行く力の基礎を身につけることは、これまで以上に求められる大事な教育課題です。他者のために奉仕する、社会のために貢献する心と奉仕・貢献できる力を兼ね備えた人を育成することを目指し、2022 年度より改良を進めてきている「六浦小教育モデル」を適宜に推進し、教育の特色としていきます。

また、児童一人ひとりを尊重した学習指導はもとより、キリスト教の精神に立った人間力を育成する生活指導の充実を本校の特色として位置付けます。確かな学力と人間力の育成で未来につながる力を育みます。また、その教育内容の充実を効果的な広報活動で広め、経営の安定を回復する教育力の増進を目指します。

教育理念

聖書の教えを基に、児童を神から託された存在と捉え、一人ひとりを愛し育む。

幅広い知識と教養を身に付けさせ、豊かな情操と創造力を培うとともに、健やかな心身を養い、真理を求め社会に奉仕する人を育てる。

教育目標

1. 感性豊かで知的探求心旺盛な児童を育てる。
2. 社会の役に立つ人となるための学力を有する児童を育てる。
3. 共に学ぶなかで、人への信頼感を持ち、自己を肯定できる児童を育てる。
4. 多様な考え、価値を尊重できる児童を育てる。

使命

1. 児童自ら価値や疑問を見いだし、学ぶことの素晴らしさを体験できるよう学びの礎を培う。
2. 社会と連帯し共に歩む人格的基礎を養う。

１．方針

六浦小学校の概ね５年間の中期計画の方針として、キリスト教教育の充実のために、礼拝・聖書の授業等キリスト教教育全般を意識して大切にする体制を構築します。また、児童一人ひとりがもっている個性・才能を大切にし、未来につながる力を伸ばしていきます。そのために本校の教育の特色となっている「六浦小教育モデル」を点検しつつ最適化を進めつつ実践していきます。学校生活を通して児童が学ぶことの楽しさを知り、自ら進んで課題を発見して探求していく姿勢

を身に着けさせ、個性を伸ばして将来の夢の実現につながるように指導していきます。また教育の充実に加えて、通学・放課後を始め子育て支援の充実により入学希望者の増を目指します。そのために以下の項目を掲げて進めていきます。

（１）キリスト教教育の充実
（２）「六浦小教育モデル」の実践と「英語教育の特化」
（３）教員の授業力・指導力の研鑽・向上
（４）広報活動の効果的取り組み
（５）通学・子育て支援への施策拡充

２．概要

六浦小学校の中期計画の概要として、聖書の授業やキリスト教行事を整備する等によりキリスト教教育をより体系化します。本校の「六浦小教育モデル」において、自身の興味への探求と自己表現の個性化、自ら選択し自ら学習をすすめる学習環境の個別最適化、世界や世の中と通じる学習環境のユニバーサル化を三本柱として進めます。この「六浦小教育」は、新しい学習指導要領が掲げる「主体的・対話的で深い学び」（アクティブラーニング）や「カリキュラム・マネジメント」を包括しています。また、六浦小学校の伝統的な教育力である作文教育で習得していく言語化する力の習得に伴われて、教員からの受動的な授業ではなく児童が自主的に学習し探求していくもので、また常に実践と修正とを繰り返しながら進化・発展していくものです。これらの充実した教育を行うために、教員はさまざまな校内研修・研究を実施するとともに、外部機関の研修会・研究会に積極的に参加し、授業力をはじめとした学校教育におけるあらゆる指導力の向上に努めます。同時に施設・設備・ICT を中心とする教育環境も充実させます。

これらの実現のため以下の項目を掲げて取り組んでいきます。

（１）校訓の意味を継続的に学び、実践する機会の創出
（２）「六浦小教育モデル」の推進と主体的学びの実現とその教育環境の整備
（３）英語教育カリキュラムと授業方法の改善、授業フレームの新設の模索
（４）新しい時代に備える資質・能力を身につけさせるための指導法・学習法の教員研修
（５）地域の幼稚園・保育園への広報と交流、帰国子女を含む転編入の推進
（６）BPO を含めた放課後の活用や休日の子育て支援の施策の拡充
（７）学校の運営全体を合理的に進めるための組織の改善推進
（８）安心安全で衛生的な学校運営に必要な環境整備

これらのそれぞれの取り組みの詳細を一覧表にまとめて示します。

関東学院六浦小学校　中期計画　プロジェクト詳細一覧表

分類	項目	項目の内容（概要・狙い・到達目標等）	2025	2026	2027	2028	2029
教育	（1）校訓の意味を継続的に学び、実践する機会の創出	①歴史的に伝統となっている学校行事が校訓の実践となるように、計画や内容が教条的ではなく内実を伴うこと。 ②キリスト教教育のベースでもある「聖書」の時間の新たな構築 ③保護者会の主催や協力で進められてきた行事の規模と内容での適宜の点検	①式典、礼拝、各学年宿泊行事の点検 ②学院のキリスト教教育の精神に則った小学校教育の推進（人事面も含めて） ③気候変動、保護者家庭数の減少による実施継続の可否の検討	前年度の観点と費用対効果、労力対効果の観点で点検をかける。			
児童支援	（2）「六浦小教育モデル」の推進と主体的学びの実現とその教育環境の整備 （3）英語教育カリキュラムと授業方法の改善、授業フレームの新設の模索 （4）新しい時代に備える資質・能力を身につけさせるための指導法・学習法の教員研修	（1）「六浦小教育モデル」と「英語教育の特化」 ①私のポケット：自身の興味への探求と自己表現の個性化 ②私のパレット：自ら選択し学習をすすめる学習環境の個別最適化 ③私のドア：世界や世の中と通じる学習環境のユニバーサル化 ④図書館整備への保護者会からの支援 （2）英語教育でのカリキュラム及び授業方法、授業フレームの新設 （3）課題に即してon-lineと対面の研修を適宜、計画的に実施する	（1）「六浦小教育モデル」 ①ポケット：方法の再構築 ②パレット：推進 ③ドア：機会の多様化 ④図書館への寄贈の継続 （2）高学年英語教育の改革と土曜活用の検討模索 （3）ICTの活用で授業への反転型学習の導入推進と研修の強化	（1）①～④；前年度の観点と費用対効果、労力対効果の観点で点検をかける。 （2）前年度の進捗を鋭意広報に結びつけながら、費用対効果の観点で点検をかける。			
入試（募集・広報）	（5）地域の幼稚園・保育園への広報と交流、帰国子女を含む転編入の推進	①金沢区内の幼稚園、保育園への広報の徹底した継続 ②横須賀、逗子・葉山など周辺地域の幼稚園、保育園への広報を拡大 ③効果的な英語教育を希望する保護者・家庭への広報の充実 ④六浦中・高との連携で海外駐在家庭へのPR ⑤六浦こども園、のびのびのば園保護者への教育内容の周知徹底 ⑥保護者会・同窓会からの協力と連携で進める広報活動の模索 ⑦転編入の推進	①～⑤2024年度までの弱点の洗い出しと新たな取り組みの推進。26年度の戦略を立てる。 特に、②の充実と⑦の推進	あらたな募集の可能性があるかないかを見極め、効果的な方策を模索する。			
社会連携	（6）BPOを含めた放課後の活用や休日の子育て支援の施策の拡充	①放課後居残りを自主学習と遊びの両面からサポートする体制の整備 ②BPOとして設置している学校内でのバスケットスクールやプログラミング、英語などの学習環境の継続と推進 ③放課後の塾・習い事へのスムーズな移動を含めたBPO提携の充実	2024年からスタートした①～③の点検と改善を常時の点検を行いながら実施	労力対効果の観点で点検をかける。			
組織運営	（7）学校の運営全体を合理的に進めるための組織の改善推進	①ICTを活用する学習活動の変化や英語教育などの深化による校務分掌の再編や改廃を合理的に行う ②教員個人と低中高の3学年ブロックでの意思決定と教育内容の点検の強化	ICT環境を十分に活用する意思決定方法の合理化を進めながら、校務組織、会議体の有機的連携を推進する	意思決定方法を点検しながら校務組織、会議体の有機的連携を推進する。			
環境整備	（8）安心安全で衛生的な学校運営に必要な環境整備	本校の財務状況に照らしての運営	法人施設建設プロジェクトおよび本校の財務状況に照らして必要な環境整備を進める。				

関東学院六浦こども園　中期計画(2025-2029)

園長　　鈴木　直江

２023年4月、六浦こども園は設立10周年を迎えました。キリスト教保育を園の土台に据えて教育・保育を行い、子どもも大人も神さまから愛され守られていることを知り、自分も他者も大切にできる人づくりを行っています。

六浦こども園の教育・保育理念である『神さまに創られた大切なひとりとして愛されていることを知り、人を信じる力を育み、他者と共に生きていく力を養う』ことを願い求め、「主体性」と「創造性」と「思いやりの心」の3つを園目標に掲げて保育・教育を行い、子どもが自分づくりの土台になる目に見えない力(非認知能力)を育むために取り組んでいきます。また、遊びや活動の中で子どもが試行錯誤や豊かな体験を積み重ね、感性と意欲と自己肯定感を高めていき、学びの基盤となる力を養います。

保育・教育理念

神さまに創られた大切なひとりとして愛されていることを知り、人を信じる力を育み、他者と共に生きていく力を養います。

園目標

1. 神と人にありのままを受け入れられる中で自己肯定感を高め、感じて考えることや自ら選択して決定することのできる子どもの育成
2. 異年齢の関わり中で豊かに遊び、自分も他者も大切にできる心を持った子どもの育成
3. 自然のもつ教育力と子どもたちの意欲を大切にした生活の中で、自ら環境に働きかけ創り出し、豊かな表現ができる子どもの育成

使命

1. 神さまに愛されているかけがえのないひとりとしての自己肯定感を高め、自分も他者も大切にできる心を育み、自分づくりの土台を築きます。
2. 豊かな経験を積み重ねる中で、生きる力となる意欲と感性を養います。
3. 子育て環境の厳しい現代において親育ち支援に力を注ぎ、広く、保育、教育、子育て支援の役割を学院(大学・中高・小学校など)との協力関係のもとに果たします。

1.　方針

『ひとり一人をありのまま受けとめ、人として尊重する』キリスト教保育を土台に据えて園の保育・教育を行い、子どもが安心して自分の持てる力を発揮して試行錯誤や豊かな体験を積み重ね、自己肯定感や自分づくりの土台となる非認知能力を育むために下記の方針を立てて取り組みます。

(1)　子ども理解を深め教育・保育の質を高めることを目指して園内・外の研修研鑽に努め、実践研究の発表を行う事で自分の保育実践を語る力を向上させていきます。

(2)　子どもたちの持てる力や意欲が発揮できる環境を新たに構築し、整備していきます。

(3)　教職員の業務の効率化を目指して、必要な ICT 化を進めていきます。また、広報活動にも力

を入れ、保育・教育の理念、日常の生活など園の情報を発信していきます。

（4） 子育て環境が厳しい現代、地域と連携し、子育てをしている親支援に力を注ぎます。安心して子育てができる環境を整え、保育、教育、子育て支援の役割を学院（大学・中高・小学校など）との協力関係のもとに果たしていきます。

（5） チーム保育の内容の検討と充実を図り、保育者集団の成長を促します。

2. 概要

教職員が日常の中でキリスト教保育に触れられる機会（朝の祈祷会・職員バイブルクラス・職員会議・職員クリスマス礼拝他）を設けています。一人ひとりが神さまに出会い愛されていることを知り、保育の土台にキリスト教保育を据える共通の保育観を持って、保育を行うことができるようにします。

日常の子どもたちとの生活（保育実践）を個人の経験値や感性で捉えるだけではなく、発達理論に結び付けて理論的な面からも子ども理解を深め、関わりや保護者との連携を構築していきます。子どもの育ちを支えるという本園の保育に必要な技量を先生たち一人ひとりが研修や発表などを通して向上させていきます。その為に特に園内研修を充実させ、自分の保育実践を語り他の先生たちと学び合うミーティングを活発に行っていきます。

キリスト教保育実践園や先駆的な環境の園など、他園見学研修も充実していき、学びの幅を広げていきます。また、発表の場で出会った人間関係を大切にして、お互いの学びや新たな試みを深める機会につなげていきます。

ホームページを活用して、園の生活や子どもたちの姿、先生たちの関わりなどを発信します。また必要なICT 化を行い、教職員の業務負担を軽減していきます。

子育て支援を充実し、特に0～2歳の乳児のいる家庭が安心して子育てできるような支援を行います。地域に出向いたり園内にお招きしたり様々な方法で支援を行い、担当者が中心となって年間の子育て支援計画を立て園全体で取り組みます。少子化が進んでいる状況を緩和し子育て環境がより良くなっていくように貢献していきます。また、六浦こども園の存在が地域の中で必要とされることを目指します。

園の目指す保育・教育理念をより良く実現するための園の体制を整えていきます。園全体のスケールを園児 200 名前後の規模とし、それに相応しい保育教諭の体制にしていき、バランスのとれた園運営を行っていきます。また、乳幼児期の育ちに欠かせない体験的な学びができる環境を構築します。

これらの実現のために以下の項目を掲げて取り組んでいきます。

（1） キリスト教保育の学びと共通理解
（2） 園内・外の研修・研究と実践発表
（3） 保育環境（園庭・室内など）の進化と充実
（4） 保育者集団の成長
（5） 業務の効率化と保育の可視化のための ICT 化
（6） 子育て・親育ちの支援
（7） 地域とつながる園
（8） 安定的な園の運営

これらのそれぞれの取り組みの詳細を一覧表にまとめて示します。

関東学院六浦こども園　中期計画　プロジェクト詳細一覧表

分類	項目	項目の内容（概要・狙い・到達目標等）	2025	2026	2027	2028	2029
教育保育	キリスト教保育の学びと共通理解	日常の園生活の中でキリスト教に触れる機会を増やし、教職員一人ひとりが神さまに出会い愛されている事を知り、保育の土台にキリスト教保育を据え、共通の保育観を持って保育を行う事が出来るようにします。 他園見学や外部講師の研修などでキリスト教保育への理解を深め、視野を広げ自分たちの園のキリスト教保育を高めていきます。	キリスト教保育の学びを深める研修の検討	他園見学研修や外部講師の研修などの実施		キリスト教保育について語り合う場の構築	語り合う場の見直し・実施
教育保育	園内・外の研修・研究と実践発表	教育・保育の実践を個人の経験値や感性だけでなく発達理論に結び付け子ども理解や自分の実践を深めていきます。研修も受け身になるのではなく、自ら考え、計画する事も含めて学び合いを大切にします。 研修の成果を発表という形で外部に示し、様々な意見や刺激を受ける事で自らの学びを深め、保育教諭同士の研鑽につなげていきます。	外部講師の継続的な研修 学会などに実践発表の実施		外部講師の継続的な研修 園内で実践発表を実施	外部講師の研修の見直し・実施 実践発表による学びの場の構築	
環境整備	保育環境（園庭・室内など）の進化と充実	環境による教育保育を充実したものとしていく為に、子どもたちの姿から必要な環境を導き出し、今ある環境を進化させて子どもたちの育ちをより良いものへと支えていきます。 保護者（お父さんの会と中心にして）を巻き込んで、　環境作りを共に行っていく中で園の教育・保育理解につなげていきます。	園庭改造 新たな環境の運用	園庭・室内改造 新たな環境の運用	環境の運用・見直し・検討		
組織運営	保育者集団の成長	少子化によりクラスの子どもの人数は減っていますが、子どもの質の変化や個別対応の子どもたちの増加により保育者の役割や連携は更に重要になります。 保育教諭の負担軽減や子ども理解の幅を広げ豊かにするためにクラス担任制から学年担当制に移行する事やチーム保育の取り組みそのものを新たに構築し、試行錯誤をしながらより良い保育者集団となっていきます。	チーム保育の新たな構築を検討	新たなチーム保育の運用	チーム保育の見直し	チーム保育の検討・運用	
環境整備 入試	業務の効率化と保育の可視化のためのICT化	ホームページを活用して園の教育・保育を地域や外部に発信していきます。また、ドキュメンテーションを使って日常の保育を可視化します。それにより園が地域や外部に周知され、入園につながっていきます。 出欠確認や日誌・連絡帳などの保育業務をICT化する事により、教職員の業務負担を軽減し効率よく仕事ができるようになります。負担軽減により、保育・教育の充実に費やす時間をもたらします。	リニューアルしたHPの活用 その他の業務の運用	HPと新たな業務の運用の見直し・検討	新たな業務の運用		
社会連携 園児支援	子育て・親育ちの支援	子育て支援（特に0～2歳児の家庭）を充実する為に、様々な方法（地域に出向いたり園内に招いたり・・・）で安心して子育てができる環境作りの支援をしていきます。園の保育・教育資源を活用して、園を知っていただきながら保護者の支援もしていきます。 年間で支援計画を立案して地域の子育て支援システムと連携します。	年間子育て支援計画の立案 担当プロジェクトの立ち上げ	保護者や卒業生に開かれた園となるための環境構築	新たな環境の運用	新たな環境の見直し・運用	
社会連携 入試	地域とつながる園	園の施設を地域に貸し出し、その事により園を訪れる人が増え園の知名度が増していきます。また、子どもたちや保育教諭の姿を垣間見る事により、園に親近感を抱き、地域の行事や園行事への参加など交流が始まります。 地域に必要とされ、地域を園生活の中に取り込んでいけるようにしていきます。	園の施設の貸し出しの検討	施設の貸し出しの実施・見直し	地域とつながる園行事の検討	地域とつながる園行事の運用・見直し	
経営	安定的な園の運営	園の保育・教育理念をより充実して実現できる規模にしてそれに相応しい保育教諭の体制や環境などを構築していきます。 園児数を200名前後の規模として環境を活かしてバランスのとれた運営ができるようにします。	利用定員数の変更と体制の見直し・検討	体制の整備		バランスのとれた運営・見直し	

関東学院のびのびのば園　中期計画（2025-2029）

園長　仲程 剛

のびのびのば園は、キリスト教保育を基本として、就学前の子どもたちが、のびのびとした環境の中で育ち、その存在や個性を大切にされることで「自分が大好き」という、自己肯定感の高い子どもを育む保育を実践しています。

子どもたち一人ひとりが、「自分はありのままの自分で良い」「自分はできる」「自分には価値がある」という思いを、どんなときにも持てるように、さらには他のお友だちも自分と同じように大切にされていることを感じ、「自分と同じようにお友だちも大切」という気持ちを持ちことができるように、日々の保育の中での保育者と子どもたちの関わり一つひとつを大事にします。

そのためにも、保育者はキリスト教について学び・祈る機会を持ち、神に生かされている命の尊厳を共有しつつ、自らの保育者としての資質を高める努力を、常に行います。

【園の使命】

私たちは神から託された大切な幼子を、キリストの愛と恵みへと導き、そして仕え、保護者と共にその喜びを分かち合います。また、職員の研修・研究と同時に、大学や保護者、地域等との連携によって、乳幼児保育の質の向上に努め、「夢」と「希望」と「愛」に満ちた子ども園を目指します。

【保育・教育理念】

「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」（ヨハネによる福音書 15 章 12 節）という聖書の言葉を基に、子ども一人ひとりを特別な存在として受け止め、神からの恵みと喜びを、子ども、保護者、保育者で共に分かち合いつつ、子ども一人ひとりを慈しみ育みます。

そして、子ども自身が、「自分が神様から愛されているかけがえのない存在であること」を知り、自分と周りにいる友だちのありのままを認め合い、大切にし合っていくことのできる生活を保障していきます。

また、遊びを中心とした活動を通して、子ども一人ひとりの主体性を育み、子どもの持っている意欲、創造力、思いやりを伸ばします。

【保育・教育目標】

「やってみよう」「大切にしよう」「表現しよう」の言葉で示される本園の保育目標を、次のような視点で達成することを目指します。

（1） キリストの愛を受け止めて自分と他人を愛することのできる子ども、神に生かされている喜びを基にキリストの生き方に倣う子どもを育て、将来は、関東学院の校訓である「人になれ奉仕せよ」を具体的に実践する人を世に送り出すことに努めます。

（2） 子ども一人ひとりの個性・特性（家庭環境・人種・国籍・民俗文化・障害等）をしっかりと把握し尊重して、神に愛されている一人の人間として大切にする保育を行います。

（3） 非認知能力に焦点を当てつつ、遊びを中心とした活動の中から子どもの主体性を育む保育を行うことで、子ども一人ひとりの意欲（園生活に自ら関わり、深めていける力）、創造力（自分で考え、環境に働きかけ、創り出す力）、思いやり（自分と同じように友達を大切にし、その気持ちに寄り添う

ことのできる力）を育てます。

（4） 子どもの主体性を育むために、子どもの生活（あそび）の環境を整えると同時に、個々の子どもの発達の歩幅を考慮しつつ、一人ひとりに応じて心と身体の成長を促します。

1. 方針

のびのびのば園の中期計画（2025-2029）として、「夢と希望と愛に満ちたこども園」を目指す中で、地域の中に存在する「幼保連携型認定こども園」として、子どもたち一人ひとりのより良い未来を創り出す役割を、子どもたちだけでなく、保護者や地域にも十分に提供できるようにします。

そのために、キリストの教えを「人になれ、奉仕せよ」という言葉で示した本学院の建学の精神に立ち、同時に「遊びの中から主体性を引き出す」ことを柱とした保育を実践します。

また、子ども一人ひとりの個性や特性、心身の育ちを丁寧に把握し、現在においても将来においてもその子らしさが十分に発揮できる豊かな人格を育むために、
さらには、地域との連携や子育て支援の活動をさらに推し進め、当園の持っている保育環境や人財、保育・子育て支援のノウハウ等を、園の内外に提供します。

そしてそれらの取り組みにより、この関東学院のびのびのば園が地域の保育教育施設をリードする園として、内外から信頼を得、少子化の波の中で、当園の保育を選択する保護者を確保していきたいと考えます。

具体的な方針として以下の取り組みを進めていきます

（1） これまでも大事にしてきた、のびのびのば園の保育理念や保育内容を、より明確に打ち出して実践することによって、のびのびのば園としてのブランドを内外にアピールします。
（2） キリスト教を土台にした本園の保育理念を実践する人財としての教職員を育成します。
（3） 保育の質だけでなく、子育て支援への取り組みや地域との連携によって、地域の子ども園としての存在感を向上させます。
（4） 施設の老朽化への対応と共に、本園の理念を体現する保育環境を目指して、中・長期的な視点での施設・設備の整備・充実への取り組みを進めます。
（5） 少子化の時代においても、保護者や地域から「選ばれる子ども園」になることで、安定して園児を確保できるように努めます。
（6） 質の高い保育を継続させるためにも、安定的な経営を目指した取り組みを行います。

2. 概要

のびのびのば園の中期計画（2025-2029）の概要としては、本園の理念を形にする具体的な実践を、人的にも、環境的にも、そして園の運営においても確実に行うことで、地域や保護者からの信頼を得、それによって地域や保護者から選ばれる認定こども園としての存在を確立します。

（1） のびのびのば園としてのブランドの明確化

① キリストの愛に根差した保育の浸透
② 主体性を引き出す保育の深化・発展
③ 一人ひとりを「特別」として大切にし、個性を尊重した保育の充実

④ グローバル化に対応した保育の確立

（2） 教職員の“人財”育成

① 祈りと聖書の学びの機会の充実

② 個々の教職員の資質を高める研修の充実

③ 本園の理念を体現する保育の在り方の研究・研修の継続・深化

（3） 地域の子ども園としての存在感の向上

① 子育て支援の充実

② 安心できる子どもの居場所の提供

③ 地域（他園、他施設等を含む）や企業等の連携

④ 保護者との連携による保育の多様化と質の向上

（4） 中・長期的な視野での施設・設備の整備・充実

① 施設設備の老朽化・経年劣化への対策

② 保育環境の質を高める施設・設備の整備・充実

③ 園の理念を体現する園舎建築へ向けての夢を整える（「夢プラン」作成）

（5） 園児の安定的な確保に向けた取り組み

① ホームページを中心とした広報の充実

② 子育て支援の充実（再掲）

③ 地域（他園、他施設等を含む）や企業等の連携（再掲）

④ 少子化対策への取り組み

（6） 安定的な経営を目指した取り組み

① 働き方改革と同時に、効率的に業務を行うための組織・業務の再構築

② 必要かつ無駄のない人事による人件費の削減

③ 計画的な予算策定と執行による、備品・消耗品費、光熱用水費等、必要経費のスリム化

③ 寄付・援助の募集の推進

これらのそれぞれの取り組みの詳細を一覧表にまとめて示します。

関東学院のびのびのば園　中期計画　プロジェクト詳細一覧表

分類	項目	項目の内容	2025	2026	2027	2028	2029
教育・保育	キリストの愛に根差した保育の浸透　⑴-①	聖書のみ言葉を、ただの「教え」に終わることなく、子ども・保育者・保護者の中が「自分のもの」受け止めるようにしたい。そして園の中にキリストの香りを、より漂わせるようにしたい。	幼児・乳児の礼拝の充実、バイブルクラスの充実、近隣教会との連携				
教育・保育	主体性を引き出す保育の深化・発展　⑴-②	本園の保育理念の柱である「主体性を引き出す保育」について、職員一人ひとりが真摯に考えることで、本園の保育の質を高める。その取り組みをカリキュラムとして形にする。	主体性の育成を核として５年間を見通した園独自保育カリキュラムの検討		主体性の育成を核として５年間を見通した園独自保育カリキュラムの作成		５年間を見通した園独自保育カリキュラム試行
園児支援	一人ひとりを「特別」として大切にし、個性を尊重した保育の充実　⑴-③	障害のある子、病気の子、家庭的に恵まれない子等、特別な配慮の必要な子どもに柔軟に対応できる職員集団を育てる。	個別の支援計画作成・活用研修		医療的ケア対応研修		
園児支援	グローバル化に対応した保育の確立　⑴-④	在園児に外国につながる子が増え、日本社会が国際化より国際化していく現状を踏まえ、園の中にグローバル化に対応する意識を醸成させ、対応できる組織作りを行う。	外国につながる園児の保護者による国際理解のイベント開催（１回/２年）				
				園だより等のお知らせの多言語化への対応検討	園だより等のお知らせの多言語化への対応開始		
組織運営	祈りと聖書の学びの機会の充実　⑵-① 個々の教職員の資質を高める研修の充実　⑵-② 本園の理念を体現する保育の在り方の研究・研修の継続・深化 ⑵-③	職員にクリスチャンの比率の少ない園の中で「キリストの愛を体現する保育」、また「主体性を引き出す保育」を実践する保育者を育て、組織としての保育力を高めるために、研修や様々な機会を充実させたい。		祈りと聖書を読む会の再開			
			見学研修・体験研修継続				園外に向けて保育についての研究発表
			保育カリキュラムについての園内研修・研究		地域の保育関係者対象の公開保育の実施		
組織運営	働き方改革と効率的な業務を行うための組織・業務の再構築　⑹-① 必要かつ無駄のない人事による人件費の削減　⑹-② 計画的な予算策定と執行による、必要経費のスリム化　⑹-③ 寄付・援助の募集の推進　⑹-④	質の高い保育を維持させるために組織としての強靭さを保つようにする。そのために、園内組織、業務内容の再構築を行い、職員の働き方改革と同時に、園運営における経費削減に努める。	シフトの試行② 職員配置の見直し	効率的シフトの検討	新しいシフトの運用		
					組織図の検討	園内組織図完成・運用	
			経費請求方法の見直し	予算委員会の立ち上げ			
			寄付募集の推進				
社会連携	子育て支援の充実　⑶-①　⑸-② 安心できる子どもの居場所の提供　⑶-②	こども園の使命である「子育て支援」を充実させ、地域の中でのニーズを高めることで、本園の存在感を高め、安定的な園児の確保につなげたい。また、取り組みが十分とは言えなかった卒園児を含めた学齢児の支援も充実させていきたい。	未就園クラスの在り方の検討	未就園クラスの組織的運用			
						学齢児(小学生)預り事業の検討・試行	
			在園児以外の子どもを対象とした園庭開放の検討		在園児以外の子どもを対象とした園庭開放の開始		
社会連携	地域（他園、他施設等を含む）や企業等の連携 ⑶-③　⑸-③ 保護者との連携による保育の多様化と質の向上 ⑶-④	限られた職員（人材）であっても、外部からの人材や教材、ノウハウ等を得ることで、園の保育の質を高めたい。そのためにも、日常的に外部との連携の仕組みを作っていく。	無印良品をはじめ、企業や自治体、施設等との連携の推進 公立保育園と共に園周辺の子育て施設との連携の推進 「お助け隊」および「おやじぃ～の会」の計画的運用				

分類	項目	項目の内容	2025	2026	2027	2028	2029
募集・広報	ホームページを中心とした広報の充実　⑸-①	園の活動、実績を園の内外にアピールする媒体としてのホームページを充実させ、組織的に運営できるようにすると共に、園の資源を活用した様々な広報活動を行う。	ＨＰ担当者の育成				
			日限山地域への重点的広報活動		園庭を活用した広報活動の検討	園庭を活用した広報活動開始	
募集・広報	少子化対策への取り組み　⑸-④	安定的な園児の確保を目指して、保護者にアピールできる園独自の取り組みを創造し取り組む。			魅力的な課外活動の新設		
			子育てカフェ設置模索				
その他	施設設備の老朽化・経年劣化への対策　⑷-① 保育環境の質を高める施設・設備の整備　⑷-②	施設の老朽化への対応と共に、本園の理念を体現する保育環境を目指して、中・長期的な視点での施設・設備の整備・充実への取り組みを進る。	雨漏り・ホール壁の補修 年少保育室フロアー補修	年中保育室フロアー補修	年長保育室フロアー補修		
			園庭の排水・防砂工事				
			緑化・整備推進				
その他	園の理念を体現する園舎建築への夢 （「夢プラン」）の整理　⑷-③	本園の理念を体現する保育環境を目指すことで、職員の保育へのモチベーション、園の運営・経営への理解を育てる。	夢プランについての 園内への啓発	園舎見学の場所選定	園舎を中心にした園見学		夢プラン策定作業　開始

法人　中期計画（2025-2029）

理事長　規矩　大義

教育機関にとって、少子化が進む厳しい時代が続くなかで、関東学院に連なる各校が今後も継続、発展してゆくためには、その土台となる法人経営が強固でなければなりません。そして、学院各校が共通の理念を共有しつつも、それぞれ個性を際立たせ、特色ある教育・研究活動を行い、地域・社会との繋がりを深め、安定した学院運営を行うためには、財務基盤の強化、施設設備の整備に加えて、高い識見を有し、高い職務遂行能力を発揮する職員と、その組織の充実が欠かせません。法人は、財政管理、施設設備、職員力の強化といった観点から、組織の強化を目指します。

1. 方針

教育機関を取り巻く厳しい環境下でも、学院各校の活動を継続・維持することができ、更に発展していくために、法人としての支援体制の充実を目指して、各部門の組織強化と、新しい時代に対応できる職員力の向上を目指します。

具体的には、

（1） 適切な収入管理、支出管理を通して財務体質の健全性を保ちます。
（2） 適正な資産を確保し、財務基盤の安定化を図ります。
（3） 教育環境の充実とバランスの取れた施設整備計画を進めます。
（4） コンプライアンスの徹底と、組織運営、学校運営におけるガバナンス強化を図ります。
（5） 職員の育成制度、評価制度を通じて職員力を高め、コンサルティング機能を発揮します

2. 概要

法人の中期計画として以下の項目を挙げ、その目標達成に向けて取り組みます。

（1） 学院内の各校・各園・各組織が抱える課題整理と改善に向けた提案・支援
（2）院内予算会計制度の見直しと実効性のある予算執行管理体制の構築
（3）安定的な資産運用収入の確保と財務基盤の強化
（4）少子化時代を見据えたファシリティマネジメントによる施設、設備、情報基盤の整備
（5）コンプライアンスの徹底とリーガルチェック体制の強化
（6）少子化時代の将来を見据えた業務推進体制の確立

（7） 職員個々の能力とチーム力を高める研修制度の内製化

（8）新しい時代に応じた人事制度、評価制度、就業制度の導入

（9）横浜都心部における拠点整備とブランド力の向上

これらのそれぞれの取り組みの詳細を一覧表にまとめて示します。

法人　中期計画　プロジェクト詳細一覧表

分類	項目	項目の内容（概要・狙い・到達目標等）	2025	2026	2027	2028	2029
経営	（1）学院内の各校・各園・各組織が抱える課題整理と改善に向けた提案・支援	学院各校が特色豊かな教育活動を行い、それを継続・発展させていくために、改革・改善を常とする運営と財務基盤の強化を図る。 ① 法人の角度から、各校、各園、各組織が抱える諸課題の解決に向けた具体的方策の提案と支援を行う。 ② 財務面から見た各校、各園の財政課題を整理し、財務体質の改善に向けた提案と支援を行う	①諸課題の抽出と整理 ②財政課題の整理 ②財務体質改善に向けた方策の検討と調整	①課題の解決に向けた具体策の検討 ①具体策の提案と実施支援 ②具体策の提案と実施支援			①点検と評価 ②効果の検証
経営	（2）院内予算会計制度の見直しと実効性のある予算執行管理体制の構築	精度の高い予算編成と実効性のある予算執行管理によって無駄を削減し、経理事務の効率化と合わせて、全ての部署の経理関係業務の負担軽減を図る。 ① 新たな院内予算管理体系を構築する ② 部署別の予算執行管理へ移行する ③ 経理関係規程の見直しを行う	①新たな院内予算会計制度の構築と予算編成 ①院内会計科目の見直し ①経費精算システムの導入 ③院内予算会計制度の見直しに伴う経理関係規程の見直し	①新たな院内予算会計の運用開始 ①新たな院内予算会計制度の点検 ②部署別予算執行管理への移行	①院内予算会計制度の評価と改善点の洗い出し		①院内予算会計制度の改善
経営	（3）安定的な資産運用収入の確保と財務基盤の強化	少子化が進むなか、恒常的な教育・研究活動に加えて、大きな資金を必要とする施策の実行に備え、中長期的な財務環境の安定を目指す。 ① 定期的に中期財政収支予測を行い、収支予測に基づく中長期資金計画を策定することで、財務基盤の強化や経営の長期的安定に向けた施策を提案する。 ②基本ポートフォリオを見直し、運用収益の長期的、安定的な確保と資産規模の拡大を図る。 ③ 資金運用におけるガバナンス体制の構築と体制整備を図る。 ④ 財務指標に基づく適正な事業規模を検討する	①財政収支予測に基づく中期資金計画の策定 ②基本ポートフォリオの見直し ④各校の財政予測	①中期資金計画の定期的な見直し ②基本ポートフォリオに基づく資金運用計画の立案と実行 ③資金運用体制の検討 ④財務指標に基づく事業規模の検討	③資金運用体制の整備と実施	②基本ポートフォリオ、資金運用計画の恒常的な見直し ④事業規模に応じた施策の検討	

分類	項目	項目の内容（概要・狙い・到達目標等）	2025	2026	2027	2028	2029
環境整備	（4）少子化時代を見据えたファシリティマネジメントによる施設、設備、情報基盤の整備	施設建設・施設整備、情報インフラの構築・更新に関する事業計画は、計画策定時に限らず、財務状況を考慮した不断の見直しを図り、常に長寿命化、低コスト化に向けた取り組みを進める。 ① 中長期施設整備計画、中長期施設建設計画は、将来の財政見通しを考慮して、継続的な見直しを図る ② 施設・設備の長寿命化施策、再生化改修を積極的に採り入れ、コスト削減を目指す ③　実施事業の決定は単年度の財源確保だけでなく、維持管理コストを含め、長期的な財政への影響を考慮して選定する ④ 導入コストや運用負荷の低減を図った情報基盤整備計画を策定し実行する	①中長期施設整備計画、中長期施設建設計画の策定		①継続的に計画の見直しを図り実行		
				②施設設備の長寿命化施策の検討			
				②施設設備の再生化改修計画の検討			
			③中長期施設整備計画、施設建設計画のための財源の確認				
			③施設建設プロジェクト予算事業の選定のための財源及び長期的な財務状況の確認				
			④情報基盤整備に関わる中期計画の策定				
				④情報基盤整備に関わる予算計画の策定	④コスト最適化に向けた情報基盤整備の実施		
組織運営	（5）コンプライアンスの徹底とリーガルチェック体制の強化	教育活動、研究活動、そして業務における法令遵守、規則遵守に加えて、倫理遵守を含めたコンプライアンスを徹底し、そのチェック体制を確立することで学院の信用を高める。 ① 施設建設プロジェクト契約に入札制度を一部導入し、透明性、公平性を高める ② 契約行為等の手続きの明確化とリーガルチェックの徹底 ③ 情報システム及びセキュリティ対策に係る管理体制の確立を目指す ④ ハラスメント防止への取り組み強化と教育機関としての懲戒基準の見直し ⑤ 三様監査の役割を明確化、共有し、監査体制を構築・整備する。 ⑥　事務部門の業務監査を定着させ、業務改善推進委員会と連携した業務改善に繋げていく。	①入札制度の一部導入（試行）	①入札制度の具体化と試行継続	①入札制度の一部導入と検証（実施）		
							①入札制度の改善・見直し
			②契約関連諸規程の見直し	②リーガルチェック体制の検討と試行		②リーガルチェックの実施と検証	
			③情報システムの管理体制及び情報関連規程（セキュリティ対策含む）の整備計画の策定		③情報システムの管理体制及び情報関連規程（セキュリティ対策含む）の整備の実施		
			④就業規則の改正に伴うハラスメント防止委員会等の見直し				
				④教育機関としての懲戒基準の見直し	④検討を踏まえた懲戒基準の規程化		④ハラスメント防止の取組強化
				⑤内部監査組織の検討	⑤業務監査の試行		
			⑤事務部門の内部監査組織について他法人の調査	⑤事務部門の業務監査内規の制定			
					⑥監査結果の業務改善推進委員会での検討		⑤⑥今後に向けての検証
組織運営	（6）少子化時代の将来を見据えた業務推進体制の確立	少子化が加速度的に進行するなか、限られた人員で、今後ますます多様化・複雑化する業務を遂行するためには、業務改革が必要である。そこで業務の簡素化、効率化に向けた定型業務の見直しを行う。	業務の現状把握と他法人調査	業務の棚卸し			
			業務ＤＸに関する調査		定型業務の見直し		
			業務効率化に向けた検討	業務効率化の計画策定	事務組織の検討と再編		評価及び点検/改善計画の策定
				学内コンサルティング機能の実現			

分類	項目	項目の内容（概要・狙い・到達目標等）	2025	2026	2027	2028	2029
組織運営	（7）職員個々の能力とチーム力を高める研修制度の内製化	学校法人の職員として獲得すべき基礎的知識・技能水準の向上と平準化に加え、所属部署における専門性を高め、所属部署以外の部署業務とのシナジー効果を産み出す。 ① 入職時研修、初年度研修、階層別研修、職場内研修の充実と内製化を図る ② 職員の専門性と事務能力向上を目途とした指導体制を確立する	①研修によるキャリアパス形成モデルの策定				
			①各研修の研修内容の具体化と実施計画の策定		①各種研修における指導者（職員講師）の育成		
				①研修実施と並行して研修内容のブラッシュアップ			
				②業務の専門性、事務能力の向上に向けた施策		②所属長の指導力向上に向けた施策	
組織運営	（8）新しい時代に応じた人事制度、評価制度、就業制度の導入	学院の将来を見据え、これからの時代に応じた新しい就労体系を検討する。 ① 職種、職位の見直しに合わせた新しい就労制度、給与体系を創設する ② 新しい時代に対応した職員人事制度・人事評価制度の創設と見直しを行う	①現行就業規則の見直し	①新しい就労制度の検討		①就労制度の具体案の策定と継続検討	
				①新しい就労制度に則した給与体系の検討		①給与体系の具体案の策定と継続検討	
			②目標管理制度の見直し	②管理職に対する多面評価の実施			
				②現行の人事制度、評価制度の改善			
					②新しい人事制度、人事評価制度の検討		
						①②新しい制度の提案	
環境整備	（9）横浜都心部における拠点整備とブランド力の向上	横浜都心部における新たな拠点を整備するとともに、同拠点を起点とした様々な活動を通じて、ステークホルダーからの一層の信頼を得ることにより、学院のブランド力向上に繋げる。	横浜都心部拠点の設置準備（運営方法、人員配置等）				
				都心部拠点における活動開始	都心部拠点における活動の計画・実施・評価・改善		
				都心部拠点を通じた同窓会（合同、各校）との連携強化			
				都心部拠点を通じた、法人と地公体、横浜の各種団体との連携強化			

中期計画（2025-2029）

学校法人 関東学院

住 所　〒236-8501
神奈川県横浜市金沢区六浦東 1-50-1
電 話　045（786）7036
メール　kikakukg@kanto-gakuin.ac.jp
URL　http://www.kanto-gakuin.ac.jp/
編 集　法人事務局　企画部
2025 年 4月1日　発行